

大正三年七月

比律賓之旅行土産
業之品之記述文件

附比島在留外國者買入負數及其投資額
ニ関スル件

外務省

3-0201



大正

次左

在馬尼刺

大正

杉村副領事

九月

将本比律賓群島ニ於テ却却

人カ種々ノ方面ニ散見スルニキハ

外務省

自我ノ趨向カナルニ至リテ然レ

相背ノ途ニ入ルニ至リテ又

要ト思フニ本邦ノ本邦人

ハ多クあり

ニ且リ凡ソ其ノ事ニ至リテ

ニ之カ施設ヲ試ムルニ至リテ

又キヤ又事業ノ遂行上法

令又ハ實際ノ上ニ於テ本邦人ノ障

49017
26

印

電話第一八九二
二一七月七日

3-0201

官の事一々事柄あり其の事
ナキヤ若シ
 除るる方活如何等、尚疑ひ
 之貴官二十公博望の調査
 遂にケ意見ハ其の報告セ
何處に至ルカ
苗ウ元
 一に大なる調査ニツイテハ
 官民の誤解ヲ和らめキテ
 中核の工に復元スル

外務省



第421号
26

文書課長 大正貳年七月七日 接受

簿書校正 原尾崎 淨仁

大正 二年 七月 七日 附
同 年 月 日 附

機密第一の號

主管

印

主任

大正貳年七月七日

在馬尼刺

杉村鎮事代理

大臣

比律、英、於、於、ル、産、業、果、以、調、方、付

本件、果、レ、泄、露、亦、多、ク、シ、テ、ト、其、意、ハ、

次、才、力、之、以、上、之、果、速、ニ、其、意、ハ、

於、之、如、邦、人、又、ハ、如、邦、人、之、非、任、法、人、ノ、所

有、之、但、借、ル、ル、地、ノ、租、税、ハ、其、他、之、租、税、

同、ク、如、邦、人、ノ、金、業、ノ、果、係、ル、事、ハ、

社、會、其、他、之、租、税、同、ク、如、邦、人、ノ、金、業、

文、目、之、三、部、以、外、於、ル、以、送、付、付、付、

付、送、付、付、付、

3-0201

附屬書類添附

有附屬物

大正九年八月

大正九年

商第二課

機密第三号
大正九年七月二十五日

左マニシ

領事代理副官 村恒

外務大臣 野村 敬啟

大正

九

第4項 第26

比津島之産業調査ニ関スル件
貴電第九號 仰中 誠ニ俾ル 本邦人、將來
比津島群島ニ於テ如何ナル事業ニ着眼
シ之、施設ヲ試ムルヲ以テ 最モ利益トナスル
キ哉、問題ニ関シ、爾來 出来得ヤク限リ
十分調査ナル 調査 相違ハ 活版次第ニ有
シ

之頃 廣河合本島内比較的交通不便、
也ニ係リ 本邦人、現ニ經營ニ着手スルニ
手セントスル 事業ノ實際ヲ研究スルニ必要
有之 隨テ 且等 事業ノ將來ニ對シテ的確
ナル 意見ヲ立ツル上ニ 於テハ 小官、
實地踏査ヲ要シ 中頃 消息 折衷シテ 以テ
來日 來、新聞紙上ニ 比津島産業調査ノ
風説ヲトシ 相違ハ 且、最近 東京帝國大
學教授 新渡戸 博士 并ニ 松岡 幸四郎 精糖會
社 事務 部長 等、一行 南部ニ 各地 巡歴シ
事ニ 有テ 隨テ 山陰 小官、出張ヲ 見ルルニ
ハ 時節 相違ハ 官民、注意ヲ 差クニ 慮ス
有之 大ニ 慎重ニ 氣ト 相違ハ 時中 頃ニ 付

又得公呈等遠隔、地方、對シテハ、關係邦人
 等ト、内容ニ、書面、往復ヲナシ、各自經營事
 業、實際ヲ知ルニ、是レハ、最近、材料蒐集
 中ニ、有之レ、及、自然相當、日子ヲ要シ
 可申候、聞先、今日迄、見込ニシテ、精々調
 査ヲ進行スルニ、八月中、相掛、可申ト、以
 存候ニ付、右様、所業認置、貯、度、以、致
 及、回申候、結果
 此、本月、七日、附、機密、送、第一、所、所、申、候、成
 二、此、為、現、行、會、社、令、并、右、外、特
 二、本、邦、人、ノ、企、業、ニ、關、係、有、三、部、法、令、別
 記、目、録、通、不、可、故、存、文、各、三、部、法、令、別
 一、七、條、及、理、多、候、所、所、入、手、相、成、度、以、致

在マニ、日本、銀行、館

吹申添張也

手記号
倉庫
別表
保存

送付目録

- 一 會社令 (The Corporation Law)
- 一 官有地令 (The Public Land Act)
- 一 同上 同條 罰則令 (Sanpilation of Laws and Regulations relating to Public Lands in the Philippine Islands)
- 一 鑛業法 (Mining Laws of the Philippine Islands)
- 一 山林法 (The Forest Manual)
- 一 漁業法 (Laws regulating Fisheries in the Philippine Islands)

在マニラ日本領事館

3-0201



附屬書類

大正貳年九月廿五日發受

第二編

有附屬物

檢査第二三三三

大正貳年九月一日

通商局

大正三
年六月
三日

第26號

左マニ
領事代理副領事 村田 恒吉

日本

外務大臣男爵 牧野伸顯 殿

大津宿 於此 産業調査報告書

産業調査報告書

貴電第九號并、檢査送第一〇號

ヲ以テ 御下命ニ依リ、大津宿 群島 於此

産業調査報告書 別紙中、固、調査表

御同所 査明 相成 候 様 度 以 致 申

大正三年六月十三日記録部 郵檢受

御候 致 具

此等 尚 未 御 査 考 迄、以 後 且 前 於 此

査 行 候 公 有 地 等、亦、ム ス 下、ヲ 設 定

ニ 関 係 之、御 下 御 査、亦、ム ス 年 續 等

部 査、公 刊 物 三 部 入 年、上 等、以 後 致

置 候 也

大正三年
九月
廿五日
發受
通商局
第26號
有附屬物

3-0201

比律賓群島産業調査報告書

写真四拾八葉
比律賓群島地図
添付

東京マニラ日本領事館

3-0201

日本人事業ニ関スルモノニ
 凡テ事業ノ十ノ九ヲ占ムルモノナリ
 十九下 柳子ニ因リ
 廿三下 米ニ因リ
 四三下 鹽ニ因リ
 四三下 酒ニ因リ
 四三下 鉄ニ因リ
 四三下 木ノ材ニ因リ
 五土下 記述ノ一讀スルモノナリ
 外

産業調査報告書

頁四拾八葉
 丁寶群島地圖
 添付

3-0201



比律賓群島產業調查報告書目次

目次

第一章 緒論

第二章 農業

第一節 麻栽培業

第二節 椰子栽培業

第三節 甘蔗耕作業

第四節 煙草栽培業

第五節 米作業

第六節 其他農產物

第三章 畜產業

第四章 商工業

第一節 對外商工業

第二節 內地商工業

第五章 漁業

第一節 普通漁業

第二節 珍珠採貝業

第六章 鑛業

金、鉄、石灰、滿儂

第七章 林業

第八章 工業

第九章 本邦人經營事業(一班)

第一節 農業(太田興業株式會社)

第二節 珍珠採貝業(蘇洛珍珠採取會社)

第三章 トリル渡業(南洋トリル渡業株式會社)

第四節 硝子製造業(山田硝子工場)

第五節 製紙原料切出經營者

比律賓群島及び邦人經營ノ產業關係地所一覽表

第十章 本邦移民一般ノ状況

第十一章 結論

附論

一、外國人殊ニ本邦人ノ企業ニ對スル本島政府ノ

方針ト比島人ノ意向

二、日本人、比島入國ニ關スル本島政府ノ

態度

三、日本人ノ事業經營上妨礙トナルマキ

法令ノ有無

在マニラ日本領事館

四、土地ニ關スル外國人ノ權利

五、外國人ノ比律賓市民權獲得ノ有無

附録 未作先甘蔗耕作計算書

挿畫 目錄



椰書目録

第一編	之島	種苗植付後六月以長、椰子樹
第二編	同上	種苗植付後一十月以長、椰子樹
第三編	同上	種苗植付後二十月以長、椰子樹
第四編	麻織紐、抽出	
第五編	同	
第六編	麻織紐、乾燥	
第七編	椰子林植付、椰子樹、乾燥	
第八編	椰子賣、椰子樹	
第九編	二年以長、椰子樹	
第十編	三年以長、椰子樹	
第十一編	四年以長、椰子樹	
第十二編	五年以長、椰子樹	
第十三編	六年以長、椰子樹	
第十四編	椰子賣、椰子樹	
第十五編	椰子賣	
第十六編	椰子賣、椰子樹	
第十七編	椰子油製法場、内部	
第十八編	甘蔗、植付	
第十九編	甘蔗、採伐	
第二十編	甘蔗、壓搾	
第二十一編	出人在來法用、製糖場内並ニ植	
第二十二編	煙草、採集	
第二十三編	煙草、島	
第二十四編	比島農氏田植、景	

在ナニナニ日本領事館

第二十五條 水牛ヲ以テ之ル米田、耕耘
 第二十六條 農民一官旗、是ヲ用テ之 販穀、景
 第二十七條 水牛ヲ用テ之 販穀、景
 第二十八條 農夫等、米臼ヲ用テ之 精米、圖
 第二十九條 官設米田所在地ニシテ島、コタバト
 河附近、景
 第三十條 二部
 第三十一條 同上道路開墾會、景
 第三十二條 同上麻耕作地、於此 労働者水法場
 第三十三條 耕地、於此 日本人、家屋
 第三十四條 太田興業會社、宅
 第三十五條 同上附屬倉庫
 第三十六條 同社用ラシテ治水、景次
 第三十七條 本邦人經營、排日船、ホーヤ港ニ奉命、圖
 第三十八條 本邦人經營、排日船出渡、景
 第三十九條 同島、於此 製糖工場（具、左
 方、設在スル本邦移民、宿舎也）
 第四十條 同方製糖工場、甘蔗運搬、圖
 第四十一條 耕地開墾會、景
 第四十二條 同耕地、於此 本邦移民夫婦者、宿舎
 第四十三條 同上 移民合病所
 第四十四條 同上耕地、於此 食料品販賣店
 第四十五條 其内部
 第四十六條 郵便電信局
 第四十七條 同島、於此 魚線電信柱

第四十八號「サトウ」耕地ニ於テハ
比律賓群島地圖一葉添付

在々上支田本領事館

3-0201



第一章 緒論

比律賓群島。於テ將來日本人ノ經濟的發
展ヲ為スベキ事業ノ何タル哉ヲ論ゼント欲セ
バ先ヅ本島ニ於ケル産業如何ヲ窺フノ必要
アルマシ、而シテ吾人ノ觀ルところハ本島現
時ノ産業中稍耳目ヲ惹クニ足ルモノハ唯
農業アルノミナリ、其他ノ林業、水産、鉱業等
ハ何レモ經濟的發達ニ於テハ未ダ中工業
ニ至ラズ、殆んど皆無ト稱セラルヲ得ズ、顧レバ
本島ノ下級職人ニテハ、西語ヲ治下
ニ在リシコト已ニ三百有餘年、日月決シテ短シト

セスト、是れ西班牙ノ新比島政策タルヤ、
比島ノ開發ヲ以テシ、其間又何等ノ指導傳入屬ヲ
施スコトアラカリシカバ、
ナク其在來ノモノ、
水情態ナリキ、
米國政府ハ大ニ群島ニ米產物ヲ開拓シ、
比島其物ノ進歩ヲ助クルヲ以テ、
治メ、
例ヲ、
莊園ノ名ノ下ニ在角加特力教僧侶、
田ヲ悉ク買上ゲ、更ニ之ヲ簡易ナル條件ヲ以テ

人民ニ貸付又ハ賣下シ為シ以テ土着農民ヲシ
テ大ニ便^{其便}ニシル^{其利}。或ハ森林林借地ノ

制度ヲ定メテ木材採伐ヲ奨励シ其他時
々甘蔗麻耕作資金ヲ貸付^{シテ}爲^ス。

●他^テ於テハ常ニ米國資本家ヲ擁護シテ進
●デ本島ニ投資^シ勸誘^ス又ハ米比商ノ関

稅^率ヲ改正シテ本島產物ノ運米利加市場
ニ流出^スヲ導^ク。

比島產業が米領後長足ニ進歩シ爲
シタルハ何人モ認ムルトコロナリトス。然レ厄亦顧

レ^テ領島當初數々年^間内^に秩序未だ
平ナラズ^テ米領人心^に恟々^{トシ}然^レ米領經過^シ、
其後ト^モ米領政治^上ヨリ^テ視察^ス母國^ニ出^ル。

米本國ノ本島ニ對スル態度^{（先角）} 本領事館^{（不動）} ナリ
且ルハ諸事ニ銳敏ナル經濟社會ニ影響ヲ
及ボスコト大ニシテ米領根本的ノ施設、經

營ニ障害ヲ与フルコト少ナカラズ、其現今日、米
領各種產業ノ發達顯著ナラズ、確乎タル

基礎ヲ有スルモノ少ナキ^ニ、竟茲ニ基因スルモ
ノト^謂ハサルバカラス以下先ヅ比島產業ノ概況

ヲ述マン

第二章 農業

群島ノ產業が農業ニヨリ代表セラレタルハ肥
説キタル^所ニシテ而シテ米^{（此）}農業ヲ代表スル

モノハ莫^クニ麻椰子^{（ココナ）}砂糖^{（糖）}煙草及米^{（米）}
ノ五種ナリトス。言フ迄モナク此ハ生産額ニ於テ又

直接間接之に従事セリナル人口數ニ於テ得々
 又年々其ノ為米弗ラ超ナル本島輸出總價額
 本島ノ約九割五分ヲ占ムル主要品トシテ相合シテ
 本島ノ經濟的生命線トモナリ、總モ
 悉ク本島ノ氣候ト地味ニ適ルモノニシテ
 及令現在在業行キテ耕作經濟ノ方法
 科學的應用ヲ之ニ試ミンカ自然ノ恩惠ト相
 俟テ前記事業カ多大ノ進歩發展ヲ為スルコト
 作ヤ疑ハズトモナリ

第一節 麻栽培業

マニラ麻ハ土語之ヲアバカト稱シ學名ヲ *Musa*
Sativa ト名ケテラレタリ、纖維植物ノ纖維

ニシテ呂宋島マニラ以南ノ群島一圍ニ汎リ、

Samor 及 Mindanao 以テ其ノ主

要產地トス、マニラ麻ノ特色ハ纖維ノ強軟

筋線ノ麗美ニテ、用中於テ土人常用ノ衣

服、其他各種ノ手廻品ノ原料ヨリ、進出テ海外

ニ輸出シテ或ハ繩索類、綯具トシテ或ハ真由

紐材料トシテ需要活潑ナリ、然レモ本島ヲシテ

最モ其價ヲ高カラシムル主因ハ蓋シ他國ニ産

出シ見カルト、代用品ノ發見アラサルト、二事ニシテ

本島ノ植付ヲ試ミタルモ好果ヲ得カルニ

本至又近クハマダ、麻等ノ發見シ聞ク

第七号
画

此近思へ
入レル
半頁ヨリ
ズツト小サク
本體シテ
柳子林ニ於ケル
麻織維乾燥
同下ニ此文字
ハレル

ト馬毛品質遠ク本島ニ及バズシテ漸ク最下
等ノ馬尾刺麻ニ代用セラルルニ過ギスト云フ

一ニ大規模ノ耕作ヲ為スモノヲ除キ麻ハ主トシ
テ多數ノ細毛小ナル小作者ニヨリ分益法ヲ以テ

耕作セラレザルニテ、乃チ小作者ハ地主ヨリ土地ヲ
借り之レガ報償トシテ産出麻ノ幾分ヲ地主

ニ納付スルモノニシテ、通常本島ノ例ハ二ツ分ナリ
ト云フ、普通一トクハヨリ産出麻ハ十擔

乃至二十擔外トシ植付後三ケ年目ニ於テ初メテ
財的價値ヲ生ズルモノナレバ管理收穫共ニ極

テ簡單ニシテ何等複雑ナル技術ヲ要セス、
刺上橋ハ天候、虫害等ニ不慮ノ災難、影郷言

テ、然感セザルモノニシテ蓋シ本島ノ曲辰世系ト
シテ理想的ノモノナリト云フヲ得シカ今信據憑

ス、**麻**マキ数字ヲ基礎トシテ**麻**
作ノ收支計算ヲ観ルハ、大概約九ノ如シ

マニラ麻栽培ニ要スル費用及
収益計算

茲ニ記載スルモノハ、比律島農務局ニ於テ公
表セシ厚シル百ハクタール(一ハクタールハ我一町二十

四歩ニ当ル)ノ耕地栽培ニ要スル費用ニシテ
毎年二十五ハクタール宛ラ栽培シ都合四ケ年

ヲ要スル計算ナリ然レバ尚銀ニ耕作、産額
等ノ如キハ耕地四辺ノ状況ニ依リ自ラ差違

アルコトハ勿論ナリ(尤モ投資ノ利息ハ計算
セズ)

17-24

○ 第一年目

支出ノ部

二千四百 (此貸マシテ我一内トス以下做之)

百ヘクタール土地購買費

一ヘクタールニ付十四ノ割

二千四百

廿五ヘクタール開墾費

一ヘクタールニ付十四ノ割

二千四百

アバカ苗木二万五千本代

千本ニ付四十ノ割

二百二十五

廿五ヘクタールノ植付費

一ヘクタールニ付五ノ割

二百五十

亦五ヘクタールノ牛入費

一ヘクタールニ付十四ノ割

八百

圍柵及道路費

三百四十

牛馬代

水牛着ハ牛三頭(每頭八十)

馬二頭(每頭五十四)ノ見積

二千

諸建物代

支配人住宅八百、労働者宿舍二百ノ割

三千二百

支配人俸給其他

支配人俸給年額二千四百、生活費七百二十

三百六十

土人監督雇入費

土人監督者一名一月三十四ノ割

二百

農具代

二百五十

測量費

合計九千四百四十五

○第二年目

支出ノ部

二千四

二十五ハクタル用銀工費

二千四

苗木二万五千本代

二百二十五四

二十五ハクタル植付代

一五百四

五十ハクタル手入費

(第一年目分廿五ハクタルヲモ含ム)

一八百四

圍柵及道路費

二三千百二十四

支那人俸給及生活費

一三百四十四

土人監督雇入費

一三百四十四

農具動物建物ノ價格低減見積高

合計七千二百四十五四

○第三年目

支出ノ部

二千四

二十五ハクタル用銀工費

二千四

苗木二万五千本代

二百二十五四

二十五ハクタル植付代

一三百七十五四

第一年目分ノ土地手入費

一ハクタルニ付十五四ノ割

一五百四

第二年及第三年目分手入費

一三千百二十四

支那人俸給及生活費

一六百四

土人監督雇入費

第三年目ヨリ土人監督者一名ヲ増ス

二百四

房舎者宿舍建増費

一三百四十四

財産價格低減見積高

一二十五四

麻二百五十擔積出港迄ノ運搬費

合計七千八百拾五円

収入ノ部

一千七百五十四

第一回収獲中耕主手取分

第一年目分廿五ヘクタールノ生産額二百五十擔トシ此中
耕主麻引人ノ手取各半分トセバ百二十五擔ノ代價一擔ノ
時價十四円ノ割ニテ前項ノ額トナルモノナリ

○第四年目
差引損 五千四百三十五円

支出ノ部

二千四

二十五ヘクタール開墾費

一千四

苗木二万五千本代

二百二十五円

二十五ヘクタール植付代

二百五十四

第一年及第二年目分入費

二百五十四

第三年及第四年目分入費

二千三百

支配人俸給及生活費

六百四

土人監督雇入費

二百七十九

麻七百五十擔積出港迄ノ運搬費

三百五十四

財産價格低減見積高

二百四

農具買足シ及荷車其他

合計七千七百三十四

収入ノ部

一千二百五十四

第二回収獲中耕主手取分

第一年目二十五ヘクタールノ生産額五百擔第二年目廿五

ヘクタールノ生産額二百五十擔計七百五十擔毎擔耕

主手取金七十四割

差引損 二千四百八十四

○第五年度

支出ノ部

一千四

第一年及第二年目分

五十一千三ノ土地手入費

一ノ千三ノ付二十四ノ割

一五十四

第三年度及第四年度目分

五十一千三ノ手入費

一ノ千三ノ付十四ノ割

一三十四

土地手入費及生産費
土人監督雇入費

一四十四

財産價格低減見積高

一三十四

修繕改良補足費

一三十四

麻子二百五十擔糶出港返運搬賃

合計 六千六百五十四

在マニラ山本領事館

收入ノ部

一八千七百五十四

第一年目及第二年目分五十一千三ノ生産額千擔第三

年目分二十一ノ生産額二百五十擔計千二百五十

擔每擔耕主手取金七十四ノ割

差引純益 二千六百八十五

○第六年度

支出ノ部

一千五百四

一三百五十四

一三千二百二十四

一七百一十四

一七五十四

第一三三三年度目分
七十五ノ土地手入費

第四年度目分手入費(共五ノ)

支配人俸給及生活費

土人監督雇入費

麻子七百五十擔糶出港返運搬賃

二四百日

財產價格低減見積高

合計 六千四百六十五円

収入ノ部

一五万二千二百五十四

第一二三年目分七十五ハクタルノ全収千五百擔第四年

目分廿五ハクタルノ半収二百五十擔計千七百五十擔

每擔耕主手取金七円ノ割

差引純益 六千八百五十四

○第七年目

支出ノ部

一三十四

百ハクタルノ土地手入費

一三十四百二十四

支配人俸給及生活費

一八百日

土人監督雇入費

一三十四

府子擔務出張運搬費

一四百日

改良補足費

一四百日

財產價格低減見積高

合計 六千七百二十四

収入ノ部

一五万四千円

總面積百クタルノ全収二千擔每擔耕主手取金

七円ノ見積

差引純益 七千二百八十四

右掲ノハ千九百十年ノ計算ニ依リタルモノ
ナレドモ目下ノ廣グアドカールト麻一擔ノ建相場
約三十パンラ唱一擔ノ價約廿五セルヲ以テ今
之ヲ二十八パンラトシテ計算ヲ立ツルトキハ収益モ

亦隨テ前項ノ額ニ比シ加倍スルモノト見テ差支ナカルベシ

右ハ總テ米國人ノ經營スル場合ニ於ケル計算ニ比シ度カニ二三割ノ割安ヲ以テ當ルコトヲ得ルハ現ニ之レが栽培ニ從事スル邦人經營ノ大田興業會社ノ實例ニ徴シテモ明カナリトあり得今本島農務局最近ノ調査ニ基キ千九百十二年度(自千九百十二年七月)ニ於ケル麻耕作地ノ面積ヲ舉ゲンニ四十三万二千八百四一クタルンニシテ其生産麻ノ總額一億五千九百四十七万三千三百七十六キログラム(二百五十二万五千三百八十八擔)ナリ平均每一ハクタルンノ收獲三百六十八キログラム四七郎

クハ擔五八十三ニ當ル割合ナリトス今又之ヲ平均一キログラムナハ仙郎ナク一擔ノ價格十一ペソ三八五ト建テ計算スルトキハ總價格二千八百七十七万五千二百七ペソト計上スルコトヲ得マシカモ本年度ハ長期ニ涉レル一大旱魃ノ影響ヲ受ケ前年度ニ比シ大ニ產額ヲ減シタルモ轉近世界ニ於ケルマニラ麻ノ需要増加ノ趨勢ニ伴ヒ價格ノ上昇ヲ來タシ現下本島ニ於ケル輸出品中第一位ヲ占メ他ノ椰子、乾菜、砂糖、煙草等ヲ凌駕シ前途ニ曠望ナルガキ主要産業業ノ一トシテ算ヘラル

今其產出額ヲ各州ニ區別シテ表示セバ右ノ如シ

州別	耕作面積	麻產額	全上	高年均收獲
----	------	-----	----	-------

アルバイ	一四、三九〇	四八、二七九、三三三	七、〇、九一五	三四二	五、四二
レーテ	四八、七五五	二、三九、九七九、七九七	三、三、三、三、三、三	四七一	七、四六
アボスガマリネス	六一、〇二九	二、〇、三、四、二、七、七、ハ	三、三、一、一、三、三	三三三	五、二七
ソルソングン	六一、四七五	二、〇、一、七、七、七、七、五	三、一、九、〇、一、六	三二八	五、一九
サマール	三一、三九九	一、三、三、三、五、七、四、ハ	二、一、一、六、三、三	四二二	六、七四
モロー	一、六、三、四、ハ	八、六、九、六、一、ハ、一	一、三、七、四、八、九	五三一	八、四一
ミサミス	一、八、二、九、一	七、六、九、三、四、五、五	一、二、一、一、三、三、五	四二〇	六、六五
スリガラ	ハ、一、二、五	三、七、七、七、一、二、二	九、九、五、五、六	四六三	七、三三
ラエンタネネ	五、一、八、四	二、一、〇、ハ、一、一、七	三、三、三、三、九	四〇六	六、四三
タババス	六、三、三、〇	一、九、〇、九、七、七、七	三、〇、一、九、三	三〇一	四、七七
カビラ	ハ、一、七、五	一、ハ、ハ、二、一、一、〇	二、九、一、五、六	二二〇	三、三三
セブ	五、八、五、六	一、六、二、五、九、〇	二、五、七、〇、五	二七七	四、三九
ホホール	三、三、ハ	一、一、七、三、三、六、三	一、ハ、五、五、六	三四七	五、四九
アゲサン	二、七、一、二	一、一、六、二、ハ、四、六	一、ハ、三、ハ、四	四二ハ	六、七ハ
カピズ	四、九、九、三	一、〇、八、九、一、二、一	一、七、二、一、九	二二九	三、四七
ラグナ	三、二、三、〇	九、八、七、八、四、四	一、五、六、一、ハ	三〇五	四、八四
ラタネネ ネグロス	二、一、九、一	ハ、七、四、五、六、五	一、三、ハ、二、七	三九九	六、三三
ミンドロ	一、六、一、三	七、四、三、五、七、九	一、一、七、五、六	四六〇	七、二九
イロイロ	二、二、三、六	四、七、七、九、二、七	七、五、五、六	二一三	三、三ハ
パタンガス	一、〇、一、六、ハ	二、六、六、五、九	四、二、一、四	二六二	四、一五
アンタク	二、九、三	六、〇、〇、五、一	九、四、九	二〇四	三、二四
パラワン	ニ	六、ハ、〇	一、〇	三四〇	五、三ハ
合計	四、三、二、ハ、四	一、五、九、四、七、三、三、七、六	二、五、二、一、三、一、ハ	三、六、ハ	五、八、三
往十一ヶ年間ニ於ケル	四、〇、四、一、六、〇	一、七、一、ハ、七、九、五、九、ハ	二、七、一、七、四、六、四	四二五	六、七三
又尤ニ既	四、七、五、一、三、六	二、六、八、四、五、二、一、四、四	二、六、三、三、二、七、五	三三九	五、二九

又尤ニ既往十一ヶ年間ニ於ケル麻ノ輸名數量俵

其基
其基

20

額、先ニ每一噸ノ平均價格ヲ示サン

自明治三十六年各會計年度比律定額

群島麻輸出表

群島麻輸出表 (註) 明治三十六年六月三十一日會計年度以下ノ概算

6年 度	數量 (噸)	佛 價額 (米貨弗)	平均價格
明治三十六年度	一三二、二四二	二一七、一五七五	一、六四一、〇
全 三十七年度	一三一、八一八	二二七、九四九、〇	一、六五、三四
全 三十八年度	一六六、七三三	二二一、四六二、四一	一、八九七、二
全 三十九年度	一一二、一六五	一九、四四六、七六九	一、七三三、八
全 四十年度	一一四、七〇一	二一〇、八五〇、八一	一、八三三、三
全 四十一年度	一一五、八二九	一七、三一一、八〇、八	一、四九、四六
全 四十二年度	一四九、九九二	一五、八三三、五七七	一、〇五、五〇
全 四十三年度	一七〇、七八九	一七、四〇四、九三二	一、〇一九、一
全 四十四年度	一六五、六五〇	一六、一四一、三四〇	九、七、四四

大正元年度	一五四、〇四七	一六、二八三、五一〇	一、〇五、七〇
全 二年度	一四四、五七六	二三、〇四、四、四〇	一、五九、四〇

(備考) 一、佛 價額ハ子ナキニテ、米貨弗ニシテ示サレリ
 香港、白耳義、英領東印度、和蘭、独逸等、其次之ニ
 次ケ

茲ニ又過去數年間ニ於ケル「グロッド・カレント」級麻一
 擴当地産相場ノ変動ヲ示サシムルノ如シ

6年 次 (曆年)	最 高	最 低	平均
明治四十一年	一九、〇〇	一四、二五	一、六、二五
全 四十二年	一五、七五	一二、二五	一、四、〇〇
全 四十三年	一六、五〇	一四、五〇	一、五、五〇
全 四十四年	一六、二五	一三、五〇	一、四、八七五

大正元年	三四五〇	一四〇〇	二四、二五
合 二年七月迄	三二〇〇	二四〇〇	二六〇〇

右ハ目下「グレート・カレント」級麻ヲ以テ当地ニ於ケル一般麻ノ為竹質及價格ヲ定ムルキ標準トナセリルヲ以テ特ニ之ヲ掲ケルコトナセリ

第二章 椰子栽培業

椰子樹ノ栽培トコアラノ製造ハ比島ニ於テ麻ニ次グキ主要農工業ト認メラレド、椰子樹ノ實ヲ結ビ所謂經濟的價値ヲ生ズルハ栽培後六、七年若クハ七、八年ヲ要シ其尙資金ヲ固定シテ採取稍不利也、觀アレバ免レバトモ一度採取期ニ達セバ亦後其收益期間頗ル長期ニ亙リ然モ不断ニシテ所有者ハ居ナカラ暴日投セシ資金

全ク回收ヨリ尚進シテ確固タル利得ヲ享受スルコトヲ得バシ、經驗アルモノハ最初數年ニ及ブ資金固定ヲ顧ルナクシバ椰子樹栽培ハ麻作ニ比シ一層有利事業ナリト云ヒリ而シテ椰子樹ハ其家ノ外葉、殼皮、樹幹等何レモ用途ヲ有シ需要盛ニシテ、就中椰子油、如キハ近來歐洲工業社會ニ深甚ナル注視ヲ与ヘ得来コアラト相競フテ大ナル需要ヲ喚起スルニ至ルカ如シ、椰子樹ハ大体ニ於テ海風ヲ受クル熱帶地方ヲ以テ最モ栽培ニ適スルモノトシ、本島群島中、南有シ海岸線ノ東部ニ於テ比島ノ到ル所亦樹栽培ニ佳ナルモミンダオ島及タヤパス、ラゲナ、アルバイ、サマール等ヲ以テ現時ノ主要産地トナセリ

之ニ從事スルモノハ西島人米國人等アリ千九百十

二年度ニ於ケル産額ハ全島各地ニ瀝リ每一

ヘクタールニ二百本ノ割合ヲ以テ統計ニ十三万六千三百

ナニヘクタールノ面積ニ對シ四千六百十三万六千三百

四十九本ヲ植付ケ之レヨリ採取ニタル果實ノ數

八十億四千八百九十九個ニシテ此中食料

ニ供セラレタル九千六百二十六万二千四百九十個ヲ

除キ他ハコアラ及椰子油ニ生産セラレ其産

額ハコアラニ於テ一億七千四百三万五千八百三十五

平均此優格ニ於テ比價十七仙トシテ計算スルトキ

ハ二千九百五十八万六千九百一十九ヤンニ當リ又椰子

油ニ於テ四百八十六万八千四百一十ヤン外ニ花梗ヨリ

テニバ酒ヲ製造ニタルモノ三千九百八十四万二千九

百十一ヤンニ當リ

今此島ニ於ケル椰子樹栽培面積ニ對シ其産出數量

先ニコアラノ外國輸出數量優格最モ斯道ニ

經驗ヲ有スルゼーシヨリ、ハリヤ氏作成ニ係ル此島ニ

於ケル今事業經營豫算表ヲ示セバ左ノ如シ

○千九百十二年産出額

産地名	樹數	收穫實數	食用果實	コアラ	椰子油	酒料
タヤパス	六九七五七	二四四〇七七	三三三三三	二二〇七八	五二四二〇	
ラガナ	五三五八四七	一五〇七四三	一五七二八七九	三三五二五	一三三三九〇	
アルバイ	四二七一二九	九六六七九〇	三三三三三	一九八八二	一四六九八〇	
サマール	三七三一四八	九三三三二九	七六〇二五三	一七〇七三	七六九九八	
モーロ	三六七三二四	七三三三三三	二二九九〇八	一三一九四七	一〇五六〇〇	二〇三五四五

セブ	二九、六四三三	七、一六九五二	四、三三八五三	一、九〇、一七五七	九、五七三三	九、五七三三	九、五七三三
カピズ	二五三、一三二	六、三三七九	四、七三六六	九、九六八五三	二、七二八	一、六八	一、六八
レイテ	二二六、二五	七、七六二、八八	七、五七九四	一、四七六、二二	三、九五四七	三、九五四七	三、九五四七
ミサミス	二〇七、四四四	四、九五四七	三、七四三	一、七四、二四	五、一六	五、一六	五、一六
ボホール	二〇三、八〇	三、三九四	二、九二、二	八、二五、四二	五、七二四	五、七二四	五、七二四
アニタス、 カマリネス	二〇〇、三五	四、五七六、三	三、三〇、八	七、三九、三	二、四三	二、四三	二、四三
ソルソゴン	一六三、四三	五、七二七、七	二、七三、三	八、九〇、六	五、九六	五、九六	五、九六
フリエンタ ネグロス	一三六、三	二、三〇、六	三、三三、三	三、九四、九	五、七	五、七	五、七
パンガシナン	一一八、二七	三、一五、二	九、四七、七	三、九、五	八、三	八、三	八、三
イロイロ	九三、八四	四、七三、三	二、七、二	二、二九、二	三、二四	三、二四	三、二四
タクンテンタル ネグロス	八七、一〇	三、九八、八	二、一八、三	二、三三、三	四、三九	四、三九	四、三九
スリガラ	五〇、九九	五、四七、二	四、三、七	一、一八、二	一、二四	一、二四	一、二四
ミントロ	五三、四九	九、三三、八	一、七六、二	一、九二、四	一、九九	一、九九	一、九九
アニタタ	二七、五三	三、五二、三	一、一七、五	四、〇、二	九、八	九、八	九、八
パタワン	二五、一五	六、六六、九	二、二四、五	一、三三、三	一、〇三	一、〇三	一、〇三
パタナガ	二四、三二	三、二五、七	一、六四、五	六、〇、一	一、一	一、一	一、一
カニバレス	一八、二六	五、一六、九	四、三、九	三、四、七	一、一	一、一	一、一
ラ、エニオン	一三、二六	二、二、四	五、七、九	四、八、八	四、三	四、三	四、三
イロスズル	八、九六	一、四七、七	一、四、五	一、四、七	八、二	八、二	八、二
カビテ	七、三〇	四、三、〇	七、五、〇	八、四、二	一、一	一、一	一、一
アグサン	七、三二	五、七、三	四、八、七	一、三、九	三、七	三、七	三、七
カカヤン	四、九、五	五、三、四	五、二、七	一、二、九	七、七	七、七	七、七
イロコス、ハルテ	三、三、五	二、三、四	四、八、〇	二、二、六	二、二	二、二	二、二
タルラウク	一、九、四	五、四、九	三、三、七	一、四、五	一、四	一、四	一、四
パタン	一、七、七	五、一、五	五、一、五	一、一、三	一、一	一、一	一、一
バタネス	一、三、八	三、九、四	三、〇、四	一、一、八	九、八	九、八	九、八

マロンチン	一三。二四	三四二五	八七。三	七。四	三三。六
ヌエバエミハ	一。九九。	八一。二	八一。三	一	七
ブラカン	六。一。一	四四。五	四四。六	一	一
パンパンガ	四四。五	一	一	一	一
リカール	四。九。	一	一	一	一
ヌエバ、ウサマ	三四。五	二二。九	二二。一	一	一
イサハラ	一五。四	一七。五	一七。五	一	一
合計	四六。三。三	一四二。一。九	四九。八。七	一七。四。五	一。一。九
本年有末年度	四二。九。五	一三五。五。九	五四。九。七	一八。三。三	一。九。九
本年有初年度	二三。三。八	六。五。九	七。一。〇	一。一。六	一。〇。一

（視明）椰子樹総数四千六百十三万六千三百四十九本、内款
 予年平均総収量数三十六個ヲ有スルモノ、三八、九三、七二。本
 未だ結実スルに至ラサルモノ
 一六、九九、三三、七九本
 テニハ酒料用ニ供セラルモノ
 二二、三三、五。本
 結実数十億四千八百十八万九千四百四十九個、内款
 コアラ用果実（コアラキロニ付）
 八、九六、二三、八。四。個
 食用果実
 九六、二六、三。四。九。個
 油用果実（油一リテリニ付）
 四、八、六。八。一。一。個

○自明治三十二年
至大正二年

各倉計年度比律表、群島コアラ輸名表

明治三十六年度	数量（P.K.）	價格（未貨并）	毎噸平均價格
明治三十七年度	九七。六。三。	四四七。二。六。九	四五。八一
明治三十八年度	五四。一。三。三	二五二。七。一。九	四六。六。八
明治三十九年度	三七。五。五。七	二。九五。三。五。二	五五。七。九
明治四十年度	六六。一。五。八	四。四三。一。一。五	六二。一一
明治四十年度	四九。〇。八。二	四。五三。一。九。三	八三。五。八

本離

苦力小屋	二、〇〇〇	九〇〇	二五〇		
食料販賣店	五〇〇	一	一	一	一
給水費	六〇〇	五〇〇	一	一	一
器具費	五〇〇	五〇〇	五〇〇	三〇〇	三〇〇
馬	二五〇	一	一	一	一
牛	六〇〇	二〇〇	二〇〇	〇	二〇〇
食料品積入費	五〇〇	二五〇	一二五	一二五	一二五
ランケ	一五〇	一	一	一	一
ランケ手入費	七〇〇	七〇〇	八〇〇	八〇〇	八〇〇
船着場	五〇〇	一	一	一	一
文房具費	五〇〇	一〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇
医薬費	九〇〇	一二〇〇	一三〇〇	一三〇〇	一三五〇
収獲乾燥費	一	一	一	一	三〇〇〇
臨時費	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
乾燥室(機械)	一	一	一	一	一〇、〇〇〇
計	四、六〇六	五、九〇六	三、二八〇	三、五八一	三、五三三

右五ヶ年度総支五額未化員 一六八七〇九五ニシテ
 一、一〇〇ニ付米化員六十七并五拾伍ノ割トナル

以後第六年度目ヨリ毎年度ノ支五額各二万五千并
 ノ年額ヲ要スルモノト見積ルトキハ六年度目ヨリ第一
 年ノ収獲ヲ得ラレバキヲ以テ今年度ヨリ優ニ其年
 年ノ経費ヲ^{仕拂}充テ其残余ヲ以テ前記資本
 ノ償却ニ充テ得ヤ^{新車}新車^先先^{十一}十一年度ニ
 於テ資本ノ全部償却ヲ了スルマキ見込ナリト云
 フ尔後三十四年間ハ手入サエ急ラズバ継続シテ十一
 年度ノ率ヲ保テ得ヤント豫期セラル^一一^テテ^確確カ

今井

新井

椰子栽培ハ有利事業ナリ本邦企業家ノ
 投資ヲナス最モ適好ナル事業ナリト謂フベシ
 今六年目以後ノ純益率ノ變遷ヲレバ九ノ如シ

六年目	二二七。〇	弗	(純増収百三十四圓三十四分)
七年目	二九。五	四。五	(純増収百三十四圓三十四分)
八年目	六一。三	六。〇	(純増収百三十四圓三十四分)
九年目	九。九	〇。五	(純増収百三十四圓三十四分)
十年目	一。六	八。一	(純増収百三十四圓三十四分)
十一年目	一一。三	六。〇	(純増収百三十四圓三十四分)

又尤、過去數年間の於ケルコアラ一擔ノ價格ノ
 變動ヲ示シテ參考ニ供セン

六年目 最高 最低 平均

一九〇八年	小由 八。〇〇〇	大由 九。〇〇〇	平均 八。七五〇
一九〇九年	小由 九。〇〇〇	大由 一〇。〇〇〇	平均 九。五〇〇
一九一〇年	小由 九。〇〇〇	大由 一〇。〇〇〇	平均 九。五〇〇
一九一一年	小由 九。〇〇〇	大由 一〇。〇〇〇	平均 九。五〇〇
一九一二年	小由 九。〇〇〇	大由 一〇。〇〇〇	平均 九。五〇〇
一九一三年	小由 九。〇〇〇	大由 一〇。〇〇〇	平均 九。五〇〇

前表ニ據リコアラノ價格ハ近來漸次上昇ノ化
 向アルコトヲ知ルニ足ルベシ

第三節 甘蔗耕作業

此島ニ於ケル甘蔗ニコアラ産業着手年月ノ
 余リ遠カラサルニ及シ本島ノ糖業ハ其ノ由來古
 ク以前ヨリ島民ノ恒職トシテ從事スルモノ多
 數ニシテ少許ノ砂糖ハ一世紀前ヨリ已ニ米國ニ輸
 出セラルルニ至リヤリト云フ。近時歐洲其他ニ於

19 25-32

ケル甜菜糖發達ノ結果ハ本島砂糖ヲシテ又復
 昔日ノ隆盛ヲ保ツ能ハカシラシメタルモ、尙現行未
 比尙ノ特惠關稅ハ比島砂糖ヲシテ米國市場ニ
 於テ本地販路ヲ得ルニ難カシクシテ常時運
 送スルモノナリ、本島砂糖ハ所謂 *Mat Sugar* ノ
 種類ニ屬シ現時ノ精製法甚カシク幼稚ナル
 ニモ不揃甘蔗總重量ノ半^{約五%}ノ糖汁ヲ擧出シ得ベ
 能ク平均偏光度ハ八二度ト稱セラレドモ之ハ
 畢竟取扱ノ粗雜ニ起因スルモノニシテ少シク改良
 シ加フルニ於テハ八四度乃至九十度ヲ出スル決シテ
 困難ナラスト云フ

本島砂糖ノ主ナル産地ハ *Negros* 島ニシテ群島
 砂糖全産額ノ約四割以上ヲ出シ全島悉ク砂
 糖畑ナラサルハナシ、之ニ次グモノヲパンパンガイトイ
 バタンガス、タルラック、セブ、イロコス、スール等ノ諸地方
 トス甘蔗耕作ニ從事スルモノハ悉ク比島人ニシ
 テ個人經營ノ者多數ナリ、多クハ仲間支那商
 人ヨリ収獲糖ヲ担保トシテ資金ノ前借融通
 ヲ仰ガツアリ、在来ノ耕作方法ハ少シモ器械力
 ヲ用ヒタル旧法ヲ里守シテ、アル尾識者ハ新地
 灌漑^{方法}講シ且ツ科學^的應用ヲ為スニ於テハ
 甘蔗栽培ニ好適スル本島ノ氣候^{地味}
 ハ少シヤ本業ヲシテ一層々發達^{地味}ヲ来ヤベシト
 云ヘリ、近時米國^米資本家ニヨリ資本金百^萬ヲ
 米弗ヲ以テミンドロ島サンホセーニ設立セラレタル
 ミンドロ^米業會社ハ本島唯一ノ大規模ナル砂

20

糖會社ニシテ所有耕地面積二万二千四百八十四
 ㌔タリル即チ約五万五千五百エーカー從業者此
 島人并ニ本邦人ヲ僱セラテ四千名搾糖所、精製
 場其他ノ工場完備シ會社將來全地ヲシテ茅
 ニ、布哇島ヲシメントスルモノニシテ其成否ハ大ニ注
 視ノ價値アルモノトス現ニ全會社ノ製糖場ハ十一
 箇ノ輪轉機ヲ握付ケ一日千二百噸ノ搾出能力ヲ
 有スト稱セラル尙ホ其他ニテ野ニ之レト全標ノ設備
 ヲナサントスルモノアリ一ハラグナ州カラシバ附近ニ在ルカラ
 シバ、エステートニシテ大正三年ヨリ事業着手ノ始ニ
 他ハヲクシデンタル、ネグロス州サンカルロスニシテ「サンカルロス
 ミリング、コンパニー」ノ所有ニ屬シ大正四年ヨリ開始ノ
 筈ニシテ孰レモ布哇ヨリ機械ヲ取寄セ握付中ニ

屬ス(註、シドニ製糖會社常務員、資本額、米價百萬円中、シドニ
 世評、此ノ今日迄ノ投資額、此ノ價、六百、シドニ、ト云フ)
 其外一日ノ量百二十五噸ヲ製造シ得マキモノ三箇
 野アリリサル州、ムンテンルバニ於ケル「マコンドレ」屬會
 ノモノ、バタンガス州、ナスグアニ在ル「ロハス、エステート」ニ在
 ルモノ、他ハオクシデンタル、ネグロス州、ラカロータニ在ルモノ
 ノトス又他ニ握付工事ヲナシ計畫中ノモノ數箇所
 アリト云フ

今本島ニ於ケル甘蔗耕地面積、砂糖產出數量
 并ニ其輸出數量、傍格ニ尙スル統計ヲ示セバ左
 ノ如シ

○千九百二十一年度製糖高

產地名	作付地面積	粗糖	塊糖	其他
オウシデンタル、ネグロス	四五、六四九	一、六八二、八〇	—	酒料、糖寮
				一、二〇

ボホー	モロロ	アルパイ	ラニニオン	アンボスガマリネス	ウルソボン	スエエニハ	カンバレス	タヤバス	カヒズ	サマール	カヒテ	リカール	ラグナ	オリエンタルネグロス	アンチク	イロコスノルテ	レイテ	パンガレナン	フラカン	イロコスノール	セブ	タルラワク	バタンガス	イロイロ	パンパンガ
六五九	六六九	ハ〇〇	一〇〇三	一七九	一九一	一三六	一五七	一六八	一七六	一九四	一九四	二二三	二二三	二六四	三〇一	三〇九	三五六	四〇三	四四六	五一八	五七四	八二六	一一一	一二〇	三三三
七五九	四七七	一	五九八	三一九	一四	一七三	一一八	一五八	四一四	一三七	二三九	六七七	三二八	五八〇	八五七	三九一	三九一	二二八	四九二	二二八	二二八	二四三	三三九	五八一	
五九七	四二二	五三六	三八二	五九四	八四三	九八九	四七九	五二七	八〇六	八九二	八六八	七九五	五八四	四二	一五三	六一〇	一七五	八〇三	六四九	九四二	九四二	五九八	九四	二〇五	

68
6
6
6

明治三十七年
明治三十八年
明治三十九年
明治四十年
明治四十一年
明治四十二年

スリガタ	四三一	一四二	一一二	一六、六五〇
マウンテンブドウサス	三九二	一〇、八	一一、八	三三、九七四
バター	三六五	五、七二二	四一	九、三三九
カガヤン	一一四	一	二、八八	一七、三三九
ヌエバツサ	九九	一	一、八五三	四、三三九
ミンドロ	三六	一九三	五、六五	一、三三
パラワン	三五	一	四、四〇	三、〇
ミサミス	三三	一七五	四、五〇	二、〇
バタネス	二一	一	一、七	二、〇
イサハラ	一四	一	三、三	一、〇
合計	一六四、二六一	三八、三三三	二、〇四、〇八	一、八、九、三、〇
明治三十七年度分	一一〇、三三三	三、八五、六、九一五	二、四三、二七〇	三、八、九、三、〇
明治三十八年度分	八三、一六八	二、四三、二七〇		三、八、九、三、〇

〔備考〕一擔ハ
六三、三五五キログラム
一トナル平均製糖量
二四、五七

明治三十七年度 二八、六五
明治三十八年度 三三、〇五
明治三十九年度 二八、六五

自明治三十六年
至大正二年
各會計年度比律算、群島
砂糖輸出表

年 度	数量 (佛噸)	價格 (米價)	毎噸平均價格
明治三十六年度	一一、六四七	三九五、八二八	三二、四三
明治三十七年度	七五、一六一	二六六、八五〇	三五、五〇
明治三十八年度	一一、三六四	四九七、七〇	四三、八〇
明治三十九年度	一一、五七九	四八三、八六五	三八、六七
明治四十年度	一一、二八九	三九三、四四〇	三二、七一

年次	最高	最低	平均
一九〇八年	五四三十七石五匁	四四	四四六十八石七匁五毫
一九〇九年	六四五十石	四四五十石	五四五十石
一九一〇年	七四七十五石	七四	七四三十七石五匁
一九一一年	七四五十石	五四	六四二十五石
一九一二年	七四五十石	四四八十七石五匁	六四六十八石七匁五毫
一九一三年七月まで	五四七十五石	四四八十七石五匁	六四三十一石二匁五毫

全 四十一年度 一五二、七二二 五、六〇四、〇一六 三七、三四

全 四十二年度 一一二、三八〇 四、三七三、三三八 三八、九二

全 四十三年度 一二七、七二七 七、四〇〇、六九〇 五五、一三

全 四十四年度 一四九、三七六 八、一四三、三六〇 五三、六五

大正元年年度 一八六、〇一六 一〇、四〇〇、五七五 五五、九一

全 二年度 二二二、五九一 九、四九一、〇〇〇 四四、六六

港支那、日本等之二次分

又尤、過去数年間は、於て砂糖相場ノ変動大ナリ

示シテ参考ニ資セン

右ハ通例本邦向ト稱セラル、イロイロ第三号糖一擔ノ相場ヲ示シタルモノナリ

第四節 煙草栽培業

本島ノ煙草ハ砂糖ト全ク其ノ創始年月相当地ニ古キモノナリ、一八七一年迄ハ収獲煙草ノ量買カ西班牙政府ノ独占ナリシヲ以テ煙草耕作ニ競争行ハズ、キチカチノ前後ヲ通シテ顯著ナル進歩ヲ見ルニ至ラザリキ本島ノ主産地トモ稱スマキキハ呂宋島ノ最北部カドヤン、イサマラノ二州ニ隣ルカドヤン河ノ沿

山ニシテ其面積ハ長サ八十哩、幅一哩半乃至三哩
 ノ處ナリトス、蓋シ年々全河ノ氾濫ト共ニ上流ヨリ
 送スル土壤ハ各方面ノ地勢低、氣温ト相俟テ
 自然的ニ煙草耕作地ニ適スルモノトス、其他ハパン
 ガシナン、ラニオン、セブ、等ノ地方アリ之ニ從事スルモノ
 ハ主トシテ比島人ニシテ家族的小規模ヲ以テシ多
 クノ場合全地々主自ラ耕作アリヤ、其ノ方
 法ハ水牛ヲ唯一ノ耕耘具トシ又何等ノ器械力ニ
 依ラサル極テ不経済的ノ方法ナリト云フ、近時マニラ
 ニ煙草製造所ヲ有スル某々會社トシテ進シテ
 前記地方ニ於テ泰西新式ノ方法ヲ以テ煙草耕
 作ヲ試シ、種々改良シ、何レモ成績佳良ナリ、
 唯マニラ、布ト耕地間交通ノ便宜ニシカラサルハ斯業

經營上不便多ク關係者ノ際ニ新ニトコロナリトス、
 本島内ノ煙草耕地ノ面積、産出數量先ニ輸出
 煙草數量及價額ヲ示セバ左ノ如シ

一九百十二年度煙草産額

産地名	耕地面積	煙草産出額	平均産出高
イカハラ	一五、五九二	一、九七五	一五、二五
カドヤン	九八、六五	五、五九三	一、二二七
パンガニナン	八、三七〇	三、〇八九	八、〇二
ラ、エニオン	六、四七七	三、二六八	一、〇九七
セブ	五、八九二	二、〇三八	七、五二
イロコス、ナルテ	三、二三四	二、〇一九	一、三五二
レイテ	二、一一三	四、九九三	五、一四
イロイロ	一、〇〇七	三、三四七	七、二三

721 本薩

イロコス、スール	八十四	五十六、四四。	一二、三三	一四、二五
オリエンタル、ネカロス	四九三	一八九、八九二	四、一八	八、三七
タルラウク	四六四	一三三、五三四	二九、二	六、二六
サマール	四三四	二二五、〇六九	四、八九二	一一、二七
オシデンタル、ネカロス	三二九	二二九、八一三	五、二一三	一五、八五
ヌエバ、エンハ	三三六	一二四、二九三	二七、二	八、二九
カピズ	三三〇	七二、六四四	一、五七九	六、八一
ブラカン	二二一	一九、九〇二	四三、二	二〇、五
スリカラ	二〇一	二二、四六八	五、一〇	二、五四
ソルソゴン	一九六	三六、三〇〇	七、八九	四、三
ホホール	一四七	四七、一一三	一、二四	六、九七
ミンドロ	一三〇	三二、七〇五	七、一〇	五、四七
マウンテン	九九	二九、二六三	六、四四	六、五一
タヤパス	八五	二二、二二〇	五、五	五、九四
ヌエバ、エンハ、ネカロス	五五	三五、三六〇	七、六八	一三、九八
アンチク	五四	七、五五四	一、六六	三、〇八
ミサマス	三六	五、〇四〇	一、〇九	三、〇四
モロー	三四	五、九三二	一、二八	三、七九
カンパレス	三〇	一、〇五七二	二、二九	七、六六
バタンカス	二九	三、八七〇	八、四	二、九〇
カビテ	二八	一、九五〇	四、二	一、五一
パンパンガ	一三	七、六六〇	一、六六	二、一一
リサール	一一	一、二一〇	二、六	二、三九
バタネス	一五	九、五五八	二、〇七	一、三八五
アルバイ	五	一、五〇	三	〇、六五
合計	五七〇、四一	三九、五八三、一六九	六四三、一一二	一一、二七

26

3-0201

明治三十九年度	六九〇・一五	二五五・八一三二	五五四・七四二	八〇・四
明治三十八年度	五三六・二六	二八〇・〇七七八	六〇六・八四三	一一〇・〇

〔備考〕一、本表は、八十四年、一、二、三等、
 自明治三十六年、各會計年度比、律、廣、群、島
 至大正二年

英米卷煙草輸出表

年 度	数量(千本)	價格(米貨弗)	毎千本平均價格
明治三十六年度	二九七・二一	九四七・二四六	七九一
三十七年度	一〇四・八〇三	九六八・八六九	九二四
三十八年度	一〇六・五七一	九六八・〇二二	九〇・八
三十九年度	九三・一三六	九〇四・二五〇	九七一
四十年度	二六・七一九	一〇五一・六二二	九〇・一
四十一年度	二七・五九四	一〇八四・七八	九二二
四十二年度	二六・二七八	一〇八三・七〇二	九三二

港、西班牙、英本國、布哇、哥、ト、ス
 自明治三十六年、各會計年度比、律、廣、群、島
 至大正二年

英米煙草輸出表

年 度	数量(千本)	價格(米貨弗)	毎千本平均價格
明治三十六年度	九四・一一	九一三・八一五	九七一・〇
三十七年度	八六・八三	一〇三一・八三二	一一八・八四
三十八年度	七八・六八	一〇一一・六二二	一二八・五七
三十九年度	九七・三九	一四六八・八三九	一五〇・八二

本願

年 度	紙巻煙草輸出表		支那等トス
	数量(千本)	價格(英貨弗)	
明治三十六年度	二〇、五五五	二〇、六九九	自明治三十六年度至大正二年各會社新年度比律實
全 三十七年度	一一、八〇四	一一、五五五	
全 三十八年度	一八、二七五	一六、四〇四	
全 三十九年度	一八、八九二	一六、八〇一	
全 四十年度	一五、二七七	一〇、四二六	
全 四十一年度	六〇、九〇四	三八、三四五	
全 四十二年度	五三、六一四	三四、五一八	
全 四十三年度	三〇、八八六	三四、四四五	
全 四十四年度	三三、四七二	三六、一三二	
大正元年度	三四、九五五	三三、四八八	
全 二年度	五二、四〇〇	五七、五八五	

主トス仕向地ハ、香港、支那、北米、全歐、英本國等トス

第五節 米作業

人口七百万ト稱セラル、比島人ノ常食タル米ハ

此島亦比島農業ノ一主要部ヲ形成シ島民隨
 所ニ於テ米田ヲ見能^ルトモ米ノ供給ハ島民
 需要ニ伴ハズシテ年々多額ノ外國米ヲ輸入
 シテアリ比島米ハ其種類極^ク多ク農理
 上^ニ觀察シテ九百種以上アリト稱セラルモ之ヲ大
 別スルトキハ高地米ト平地米トニトナスコトヲ得
 低地米ハ穀粒純白ニシテ且ツ一穗ノ成實量高
 地米ニ比シ遠^ク多ク優良種トシテ知らル何レモ
 例年六七月頃ヨリ始^ル本島兩期ヲ利用シテ耕
 耘植付ヲ為シ九十月頃ニ收穫ヲ了スルモノニシテ
 自然ノ降雨兩期^ノ外^ニ農理的澆灌法ヲ講ゼ
 サルヲ以テ氣候ト地味ノ^間斷未作ニ適スルニモ
 本島^ノ現今尙多數ヲ通シ^テ收穫年一周年^ノ間
 印度支那^ノ諸島^ノ諸島^ノ等ニ觀ル如キ撒播法ニ
 依ラシテ苗代ヨリ移植スル植付方法ヲ以テスルハ
 本島未作ガ前者ニ比シ一日ノ長アリト云ヒ得ハキモ
 亦土地ノ鋤キ返シ其他ニ於テ僅ニ水牛ヲ使用ス
 ルノ外悉ク^ク人カヲ以テシ且ツ植付ヨリ收穫迄
 除草肥料給与等ノ勞ヲ採ラサルガ故ニ一定
 面積地ヨリ產額ハ案外ニ少量ニシテ普通^ニ二三
 ヲリ得ハキ^ニ先ヅ廿五乃至五十カバン^ノ我約十石
 乃至二十石^ノ間^ノ澆灌ノ良^キ土地例ハバカビテ
 州イムスノ如キ百カバン^ノ約四十石^ノニ上ル^ル野モアリ
 現今米作地トシテ有名ナルハパンガシナン^ノ又エバ^ノパン
 パンパンガ^ノタ^ノラ^ノワ^ノ等ナリ農夫ハ悉ク比島人ニシテ
 地主ノ關係ハ收穫^ノ分^ノ通例トス^ル本島

ニ於テル米田反別及其産額表 且里ヲ示サン

○十九百十二年度米産額

産地名	耕作面積	粗米産額	精米高	平均産額
パンガシナン	七七七、四〇〇、八九九、四〇、ハセ、六	五、〇六	五八、五、六、五、一、五、二	三三、〇
イロイロ	八、〇五、二	二、八、二、七、六、七、四、一	一、八、四、一、二、七、六、一	二二、八
又エバ、エシハ	七、二、六、六	三、四、六、六、三、三、九	二、二、五、七、〇、六、九、五	三三、三
パンパンガ	五、六、四、三、二	七、八、三、六、一、五、六	一、一、三、一、四、二、四、一	二〇、五
タルラフク	五、六、三、三、一	二、〇、八、四、五、六、六	一、三、〇、七、八、三、三、二	二二、二
ブラカン	五、六、一、三、六	九、九、二、三、七、六、九	六、四、六、一、九、八、九	一一、五
カヒズ	五、〇、六、五	四、〇、二、四、二、九、八、八	二、六、二、〇、四、七、三、六	五、一、三
イロコス、ノルチ	四、八、三、三、七	三、三、三、三、四、二、六、九	一、七、一、三、四、八、八	三、五、四
イロコス、スール	四、一、四、六、五	一、五、三、三、三、六、九、九	九、九、九、九、九、〇、六	二、四、一
アンタク	三、二、三、三、四	二、五、〇、四、三、八、九	一、六、三、三、〇、七、六、四、九	五、二、二

産地名	耕作面積	粗米産額	精米高	平均産額
オランダ、デンタル	二、九、七、五、七、六	七、四、五、八、六、二、七	二、三、六、八、四、〇、八	三、八、二
ネゲロス	二、九、六、五、七	七、〇、五、六、二、二、〇	四、五、九、四、七、四、八	一、五、四
タヤマス	二、七、三、七、五	一、〇、七、六、六、二、七、八	七、〇、一、〇、五、九、九	二、五、六
ラ、ヌニオン	二、五、七、七、八	五、九、六、四、四、五、八	三、八、八、三、八、三、三	一、五、〇
バタンカス	二、四、七、九、二	二、〇、五、八、八、三、三	七、八、五、二、二、三、三	三、一、六
ホホーレ	二、三、九、六、八	一、八、一、九、六、六、五、四	一、一、八、四、八、九、八、四	五、一、五
ラガナ	二、二、九、六、一	六、〇、九、〇、六、九、三	三、九、六、六、〇、三、三	一、八、〇
アンボス、カマリネス	二、一、七、四、四	二、三、九、四、七、〇、〇	八、四、三、〇、六、〇、四	三、八、七
レーテ	二、〇、七、四、二	二、三、三、〇、六、九、九	四、一、一、九、九、三、三、四	一、八、九
カビテ	一九、九、四、四	一、四、一、四、四、四、八	九、二、一、〇、三、六、四	四、一、一
カドヤン	一九、二、九、〇	一、二、三、八、七、二、七、五	八、〇、六、六、一、三、三	四、一、八
サンパレス	一八、八、三、七	六、二、〇、二、六、八、一	四、〇、三、八、九、五、五	二、二、四
マウンテン	一七、〇、六、五	二、〇、六、二、七、五、九	一、三、四、三、一、九、二	七、八

アルバイ	一五、六二六	一三、三九五	一九三	七九三	八〇七一	二八八	五二六
サマリル	一四〇、一一	三四六、八六九	二四七	二四七	二二五三	五八九	七六〇
パラワン	一三五七二	四九三、八一〇	三六三	三六三	三二一五	五一〇	二三六
スリガラ	一一七四〇	九五〇、二九三	八〇九	八〇九	六〇一八	七九七	五三七
モロロー	ハ七三二	二八七、八五三	三一八	三一八	一八七四	四一三	二一四
ミサミス	七四八九	五三、九六三	七〇九	七〇九	三四六	一五七	四六二
バタオン	七〇七九	七八三、四七二	一一〇、二	一一〇、二	五一〇	一七四	七二〇
ソルソゴン	六一四九	二三五、二〇五	三八二	三八二	一五三一	一七	二四九
ミンドロ	五八八二	二四二、三三三	四一一	四一一	一五七六	七〇	二六八
ヌエバ	四八四九	三四五、四〇九	七一三	七一三	二二四九	一七四	四六三
ウサカヤ	四四二一	二六三、五八九	五九三	五九三	一七〇九	八八四	三六六
セブ	四二二八	一八七、四二六	四四四	四四四	一一二〇	四二六	二八九
イサブラ	三七七四	九七二、三三七	二五七	二五七	一三三三	一三三	一六七
オリエンタル ネグロス							
アグサン	一一三三〇	三九九、七一三	三三七	三三七	二六〇	二七八	二一三
バタネス	二七	一七五、六	六五	六五	一四四		四二
全計	一〇七、八九一	四九七、七六一	四六二	四六二	三三五	二九九	三〇一
千九百十年度分	一九二、四一	二〇三、二四七	一〇、七七	一〇、七七	五七四	六三六	五二五
千九百十年度分	一〇、四三七	八二七、九四二	八四九	八四九	五七四	二六八	五九〇
千九百十年度分	一九二、四一	八〇、九四〇	六八〇	六八〇	五二八	五四〇	四四二
千九百十年度分	一九二、四一	一八五、九〇	一五八	一五八	九一九	五九四	七七〇

〔備考〕 叔米一カバンハ四三キロヲ以テ平均量トシ又精米一カバンハ四十一カバンハ五十七キロ半ヲ以テ平均量トス 叔米一カバンハ四十
三キロヲ精米トナストキハ二十八キロトナル 叔米一カバンハ
五分一厘二毛ノ割合ニ当ル 叔米一カバンハ
〇五三九七ヲ以テ精米一カバンヲ作ルコトヲ得バシ

多額の米
は、
前年度
に比し
約半減
に近
す。

(注意)前表ニ就キテ見ルニ千九百十二年度ニ於ケル米
産額ハ前年度(千九百十一年)ニ比シ約半減ニ近キ減
収ヲ告ゲタリ右ハ全ク今年度尙本島一園ニ渡リ未
曽有_レ長期旱魃ヲ見タル_レ為_レノ自然其影響
ヲ蒙_リタルニ外ナラズ故ニ平年作ナレバ先ヅ之ニ倍
加スルモト見做スヲ得マシ

未作収支計算ハ明治四十二年三月編有_テ移民
査報書中ニ赤坂領事提出ノ此律定_ル群島

部第七小東本_ニ準_テル_レ。

龍ニ既往数年間ニ於ケル外米輸入ノ統計ヲ示	一九〇七年度	二二、七四九	三、六六二	四、九三弗	三、二二五
	一九〇八年度	一六、三二七	五、八六一	二、五五六	三、三三三
	一九〇九年度	一三、七六八	四、二五〇	二、二二三	三、〇九九

在マニラ日本領事館

一九一〇年度 一八、四六二 五、三三二 九、六六一 二、八八八

一九一一年度 二〇、三〇八 六、五五六 六、六三三 三、三三三

一九一二年度 二六、〇二五 一〇、五九九 九、四九九 四、〇六六

前記載ノ如ク此律定_ル群島_ニ於_テハ毎年_ニ米_ノ産_額漸_ク増_スル_レニ至_ルニシテハ尙中食ニ不足ヲ告ゲ外米ノ輸入ヲ仰ギ
テ漸_ク其需要ヲ充_テル_レル_ニ至_ルニシテハ尙中食ニ不足ヲ告ゲ外米ノ輸入ヲ仰ギ
地米作ノ豊凶言_ハリテ自ラ外米輸入高ニモ多少ノ
差違ヲ見_ルカモ其ノ至_リタルハ全ク島内稲作
不振ノ結果ナリト云_フヲ得マシ是ヲ以テ政府ハ夙_ヨニ
之ヲ慮ヒ耕地灌溉ヲ策スル_レ或ハ農業銀行
ヲ興_シテ資本ノ融通ヲ内滑ニスル_レ或ハ最
近_ニシ_テ島_ノコ_トバ_ト方面_ニ官設米田ヲ設置シ
威_シ農民_ヲ移_植スル_レ等類_ニ稲作ノ奨_励ニ

省ク

努メ銀蓄蓄振興ノ計
 効果ノ現ハレサルハ畢竟
 シテ徒ラ無為ノ好
 行ノ際水牛ノ斃死
 味ハ沃饒ニシテ氣
 雨量亦甚ナカラカレバ
 此比較的少ナキ勤勞
 得ラルマキ上ニ耕地
 ナルヲ以テ人ノ努力
 餘アル米ヲ産出セシ
 故テ難康ニアラカ
 一般農家ノ苦痛トセ
 本家ニ於テモ一此島
 耕作地差クハ未開墾
 ナル我が農民ヲ移植
 上十分ノ改良ヲ施コ
 ヲ得バ容易ニ第二ノ
 得ラルマシト信ス又
 交渉ノ結果前記コト
 我農民ヲ百家族位招
 指導者トシテ共同經
 人發展ノ地盤ヲ作ル
 現行法ニテハ外國人
 計
 アレドモ夫カ著シク其
 土人ノ生業懶惰
 適庫時尙
 如以往年牛疫流
 耕作ニ不
 本群島ノ地
 至極適順ナリト謂フ
 一年二回以上ノ收獲ヲ望ム
 地トモ其地積廣大
 本島民ヲ養育セテ
 者ノ欠乏セルコトハ一
 此際我有力量
 組織シテ適當ノ
 於ケルカ如ク耕作
 經營ニカノシムコト
 今後本島政府ト
 於ケル官設米田
 此島農民ノ
 他日本邦
 思考ス亦モ
 得ラルマキ道ナク

唯々法人ニテモ形造ラシシ此ノ名義ノ下ニ借地ヲ求
 ノレムルノ手段アルノミ

第六節 其他ノ農産物

前記ノ外此島ノ農産物中精見ルニ足ルモノ
 ハ玉蜀黍アリ島民米ニ次ルニ常食料ト
 シテ需要甚多シマゲルハアカカ麻裁
 培ノ欠ヲ補フテ亦一ノ生産品タルヲ使ハズ
 其他各種果樹ノ培養モ逐次増カシ近時ハ
 外國産果樹ノ移植ヲサヘ見ルニ至レリ
 咖啡ハ
 嘗テ島内ノ主要産物トシテ海外輸出
 前世紀中極盛トシテ流行見タル植物
 茲ニ衰微シタルモノ多カリシガ頃者又々復興ノ
 気味アリ綿、各種香油ノ原料植物、製紙原料竹

等又豊富ニシテ何レモ資本ト最新學理ノ應用シ

待テワ、アリ

終リニ比島ニ於ケル農産物ノ関スル最近二十年
 間ノ統計ヲ示サン

農産物

(一九百十一年七月ヨリ一九百十一年六月ニ至ル一ケ年間) 總價額

種別	耕地面積	収獲高	平均價	總價額
米	一〇四三、七五七	五七四、八四二	〇、二四八	六五九、一九四
麻	四、〇四二	一七、一八七	二、七三九	二七五、〇七三
椰子	二〇八、四七六	二八、三三三	一、三七七	二六、二二二
干菜		二、八三三	一、五七四	二、八三三
椰子油		六、六〇二	一、九八〇	一三、一七二
酒		三、七四九	〇、五八二	二、一七二
砂糖		二、四三九	一、二四九	三、〇五八
其他				二、四三九

平均總價額トハ
 價額ノ前調トスルニ
 非カシテ協産額
 平均價額ヲ乘ジ
 統計ノ件ニシテ
 ナリトシテ示サシ

甘利

玉蜀黍	三〇、五二六	一八六、四〇七	〇、四六八	八七三、七三九
煙草	六九、〇二五	二九、五一八	〇、二七	六八八、六九五
統計	二四八、二三七			五九七、〇〇四
<p>〔備考〕</p> <p>一、ハタタールハニエーカー四七一ニ等シ</p> <p>一、ハタハ塔中量ニ封度ニ。四六ニニ均シ</p> <p>一、リヤルハ固体量ノクラーツ九。ハ〇七七又ハ液体量</p> <p>一、クラーツノ五六七ニ等シ</p> <p>一、ペソハ我一四均シ米價一市、年、相高ク</p>				
農産額	(千九百二十一年七月ヨリ 千九百二十二年六月ヨリ至ル一年間)			
種類	耕地面積	収獲	高	平均米價
米	一〇七、八八九	精米 三二五、四二九	〇、九二	一、三
未		食用熟麥 九六、三二二	〇、四九	〇、三
椰子	二二〇、〇八二	乾実 一七四、〇三五	〇、三	二、八七
椰子油	四、八八		三、〇	一、四一
椰子酒	九、八二		〇、五	一、九二
粗糖	二四、三三四		〇、一	二、三三
塊糖	一一、九〇八		〇、一	一、二九
糖蜜	二、八五八		〇、六	七、二四
甘蔗	二六四、二二二		〇、五	一、九二
玉蜀黍	三三、〇九六		〇、四	二、二一
煙草	五七、〇四一		〇、二	七、九七
マゲ	八、九八八		〇、二	五、五五
珈琲	一、〇六八		〇、八	一、八七
カカヲ	一、二七六		九、〇	一、六八
統計	二、三二四、八七			一、五四九、二九三

33-40

又前記農産物中ノ麻、コアラ（椰子乾皮）、砂糖、煙草ハ本島
全輸出額ノ九割三分以上ヲ占メ、アルコトハ尤表ニ就中
テ見ルベシ

品目	千九百十三年度	千九百十五年度	千九百十七年度	千九百十九年度
麻	千九百十三年度 三、四四七、四四〇	千九百十五年度 一、六二八、三五一〇	千九百十七年度 一、六二四、一三四〇	千九百十九年度 一、五八三、三五七七
コアラ	二、四四七、八九八	二、六五二、四七四九	九、八九九、四五七	六、六五七、七四〇
砂糖	九、四九一、五四〇	一、四〇〇、九七五	八、〇一四、三三〇	四、三七三、三三八
煙草	三、三五六、七四八	二、三六〇、〇〇二	一、七〇〇、七二二	一、〇八三、七〇二
紙巻	五七、五八二	三、二四八、八	三、六一三、二	三、四九一、八
其他	二、三九七、七二六	一、九〇二、六四四	一、八八八、七三三	一、六七四、〇三三
其他雜品	三、三六九、〇一六	二、五二五、八〇九	二、二七九、九〇五	一、三二七、五五〇
合計	五、三六八、三三六	五、三九八、三三六	五、七七八、六三九	五、三二七、九六〇

第三章 畜産業

比島ノ土質ハ又大部分畜産ニ好適シ、牧草、飼
トコロ、穀類、茂、而シテ農業用畜類、需要ハ
近時文明風ニ慣ハントスル位民ノ採、肉食、需
要ト共ニ層々畜産ノ有望ナルヲ示シ、現下牛疫ノ
発生頻々ニシテ企業家ハ畜産上ニ甚ク難業ヲ感
シ、政府者ノ防疫ニ関スル努力ハ、甚ク遠
此、種、根、絶、本業ノ隆盛ヲ見ル事近キ
ニアランカ

畜産物ノ種類

千九百十三年六月四日現在数	千九百十五年六月廿四日現在数	増加率
一、二七二、三三三	一、四六六、六四一	一〇・七

備考
外ニ一
万頭
マニ
アリ

牛	三三七、二〇二	二八九、七七七	一、六〇四
水牛	九一、二四八	八〇九、一六七	一、三〇六
豚	一七三、五〇四	一、六六二、九三一	四、三九九
山羊	四七、六三三	四四一、三二五	八、〇
羊	九七、六四〇	九二、五九七	五、四四五

外... (外貨)

外... (外貨)

外... (外貨)

外... (外貨)

外... (外貨)

外... (外貨)

以下次号

第四章 商業

第一節 對外商業

此律賓ニ於ケル對外的商業關係ハ米國領有以來
 非常ニ進歩ヲ來シ殊ニ一九〇九年以後全國
 ト比島トノ間ニ自由貿易ヲ開始セル見タルヨリ著
 シク故地產業ヲ膨脹シ保ヲ爲メ一般人民ノ
 購買力ヲ増進シタルニト甚少ニアラズ西國
 活下ニ於ケル外國貿易額ノ如キ僅カニ六千萬円
 ニ過ギザリシモノ現時ニ於テハ二億冊四ヲ超スル
 勢ナリ

然レ日本島最近ノ貿易高ヲ見ルニ千九百十二年
 度ノ輸入五十四萬五千九百九十九弗輸出五十四
 三十一萬九千八百三十六弗合計一億四百八十六萬九千

八百十六弗即チ二億。九百七十三万余田ニシテ之ヲ布
哇及我台湾朝鮮ト比較対照スルニ其面積人口
ノ上ヨリ云フモ優ニ將來發展ニ得バキ餘地幾十
分ナルヲ示セリ

面積

人口

貿易額

比律賓	二五〇、二六	七、三三、五、四、二、六	二〇、九、七、三、三、九、六、三、二
台湾	一三、八四〇	三、二、五、三、五、八、九	一、三、五、三、三、四、〇、九、三、三
朝鮮	八四、〇〇二	三、〇、七、一、一、七、七	一、八、八、一、〇、一、〇、六、四
布哇	六、四九〇	一九一、九〇九	一、六、一、三、九、三、四、〇、四

斯ク比律賓ハ比較上尙ホ未開ノ宝庫トシテ前
途洋々強ク際涯ヲ知ラサル者尠能心ニ
在リ交通運輸ノ奔達、産物ノ勤興、通
商貿易ノ伸張等將來ニ待タザルハカラムノ多シ
收地ノ交通振興トシテハ鉄道ノ延長五百六十哩ヲ
有スルノミニ過ヤズシテ餘ハ沿岸航海ノ船舶ノ便ニ
依ラカレバカラス

同下比島沿岸ニ於ケル外國貿易港ハ六ヶ所ニシテ
馬尼刺、イロイロ、セブ、サンホアンガ、ホロロ、及バラバワクトス
千九百十二年度ニ於ケル輸入品中最も重要ナルモノハ
米ニシテ綿織物、鉄製品、肉類、麥粉、石油、石灰、
食糧品、紙類、酒類等之ニ次ギ、果物、輸入港トシテ馬
尼刺港強ク輸入総額ノ八割ニ分ラレタリ、余ノ各
イロイロ、セブ、サンホアンガ、ホロロ、及バラバワクトノ諸港順次之
ニ次グ

既ニ述ビ通り麻コアラ
砂糖、煙草等ニシテ本邦地ニシテ馬尼刺ハ総額ノ
輸出

約七割ヲ占メゼ「イロイロ」ホ「ロ」サンボアンガ「バラバツク」ノ
順序ナリ

輸入國トシテハ北米合衆國、仏領東印度、英國、日本、
臺灣、獨逸、支那、[●]等ノ順序ナレバ輸出國トシテ日本、
朱、仙、英、西、獨、白、[○]六ヶ國ヲ前ニ控ヘテ其次ニ位セリ
今年中本邦ヨリ輸入額ハ米價、三百二十三万四千
七百十七弗ニシテ其重[●]ナル輸入品ハ石炭、綿布、綿
糸、メリヤス、蔬菜、絹織物等トシ又本邦ハ向ケ輸出
額[●]百十八万九千八百二十八弗ノ内麻、砂糖其大
部分ヲ占メ、[●]ギ、[●]麻、[●]マデー、[●]コアラ、[●]巻煙草等ニ
次ゲ

各國ノ船舶中積込貨物ノ多キハ英國ヲ第一トシ
獨末、西日此諸ノ順序ナレバ積込貨物ニ在リテハ
英、獨、西、日、米、諸比ノ順序ナリ

今外國貿易ニ從事スル船舶ノ千九百十二年度間
本島ニ出入シタル[●]噸數ニ入港九百四十九隻此噸數百
九十六万五千六百九十三噸、出港九百三隻此噸數百
九十三万九千七十九噸ニシテ其中本邦船舶ハ入港百三
九隻此噸數三十六万七千五百七噸、出港百三十七隻三
十七万四千十三噸ナリ

馬尼刺ニ於ケル銀行ハ重ニ外國銀行ノ支店ニ係
リ当地ニ於テ設立セラレタルモノハ僅カニ元西班牙銀行
ノ改稱シタル菲律賓銀行 (Bank of the Philippine
Islands) 並ニ官設農業銀行アルノミ其他輸入抵
当銀行類似ノモノニ三ナキアラズ外國銀行ニテ
支店ヲ設ケ居ルモノハ查打銀行 (Chartered Bank

of India Australia and China) 香港銀行 (Hongkong Shanghai Banking Corporation) 万国通商銀行 (International Banking Corporation) ニシテ、イロイロ

セブール、カンボア、ガ、等、支店若クハ代理店ヲ設ケ、
 比律賓、群島、保信託會社ト稱スル信用機關アリ、波、見、稅關其他公署ニ對スル保正金ノ支替、
 輸出入、商ノ重ナルモノハ孰レモマニラ、市ヲ根據トシ

セブール、イロイロ、等、其支店又ハ代理店ヲ有スルヲ常トス
 輸出入、對シテハ、商ノ地位ニ立テ、輸入品ニ對シテハ卸賣、商トシテ活動ス、外國商人中、西班牙人最モ多數ヲ占ムトモ、英人ノ如ク信用厚カラズ、之ニ次ガリ、獨、支那、日本、商トス、是等各國商人

商ノ意思、疏通ヲ圖、新リ、群島ノ繁榮、策ヲ講ヤル
 爲、マニラ、商人協會、格、團體ノ設ケアリ、
 各國人ヲ、網羅シ、且、之數箇ノ商業會議ヲ、其中ニ
 包含ス

今尤、過去十五年間、本島ノ外國貿易額ヲ揭
 ゲ、以テ、最近四年間ニ於テ如何ニ多大ノ發展ヲ
 ナシタルカ、示スベシ

年 度	輸 入 額	輸 出 額	總 計
明治三十三年度	一三一、一六、五、六七	一四、一四、〇、一、二二	二七、七、五、七、二九
全 三十三年度	二、〇、六、〇、一、四、三、六	一、九、八、二、一、三、四、七	四、〇、四、二、二、七、八、三
全 三十四年度	三、〇、二、七、六、二、〇、〇	二、三、二、二、二、三、四、八	五、三、四、九、八、五、四、八
全 三十五年度	三、二、〇、二、九、三、五、七	二、四、五、四、四、八、五、八	五、六、五、七、四、二、五
全 三十六年度	三、三、九、七、八、四、四、五	三、三、一、五、〇、一、二、〇	六、六、一、二、八、五、六、五

令 三十七年度	三三二二一五二	三〇三六一二七	六三四四七三七八
令 三十八年度	三〇八七九〇四八	三二三五九八六五	六三三三四九一三
令 三十九年度	二五七九九二九〇	三一九一八五四二	五七七二七八三三
令 四十年度	二八七八六〇六三	三三七二一七六七	六二五〇七八三〇
令 四十一年度	三〇九一八七四五	三二八二九八一六	六三七四八五二〇
令 四十二年度	二七七九四四八二	三一〇四四四八八	五八八三八九四〇
令 四十三年度	三七〇六七六三〇	三九七二七九六〇	七六七八五九九〇
令 四十四年度	四九八三三三二二	三九七七八六三九	八九六二二三五一
大正元年度	五五五九九九八〇	五〇三九八三六	一〇四八六九八二六
令 二年度	五三三二七五三三	五三六八三三三六	一一〇〇一〇九五九

第二節 收地商業

此律廣收地ニ於ケル現下ノ商權ハ實際支那商人ノ掌中ニ在リト云フモ、
 南人ノ本島ニ來航セシハ、連年西班牙人ノ本島ヲ見以、前ニアリ、
 根柢甚カシクテ今ヤ四万有奇ノ支那商人ハ、
 群島ニ至ルハ、
 氣脈ヲ通シテ商業ヲ營ミ、
 ナリ、他外國人ノ經營ニ係ル、
 テ收地各村落ノ商品、
 彼等ノ掌中ニ歸シ、
 人ハ僅ニ、
 ルノ觀、
 人ヲ疎外シテハ、

南人ノ本島ニ來航セシハ、連年西班牙人ノ本島ヲ見以、前ニアリ、
 根柢甚カシクテ今ヤ四万有奇ノ支那商人ハ、
 群島ニ至ルハ、
 氣脈ヲ通シテ商業ヲ營ミ、
 ナリ、他外國人ノ經營ニ係ル、
 テ收地各村落ノ商品、
 彼等ノ掌中ニ歸シ、
 人ハ僅ニ、
 ルノ觀、
 人ヲ疎外シテハ、

スルニト至難ノ地位ニ在リト謂フベシ故ニ内地商業上
ノ潛勢カヲ有スル莫ニ於テ順位ヲ定メントスレバ先づ
支那人ヲ第一トシ英米独西日仏等順次之ニ次ケモノ
ノ如シ

右モ我邦人中ニモ三井物産株式會社出張所伊藤
忠兵衛出張所田川商社太田興業株式會社出張所
等ノ如キ有力ナル却商人ナキニアラサレドモ其他ハ概
シテ小商人ニ過キ不覺其勢力ノ復カニ英米西独支
那人等ニ劣ルハ莫ク遺憾ノ極トス

千九百十二年度ノ税関報告ニ拠ルニ今年度尙迄岸
航路ニ從事シタル船舶ノ馬尼刺イロイロセブ外四
港ニ出入シタル船數ハ入港一萬一千四百五十四隻(其總
噸數百三十一萬四千八百七十二噸)出港一萬一千四百六十一隻又

(其總噸數百三十一萬四千六百二十噸)ナリ

第五章 漁業

第一節 普通漁業

本島ノ漁業ハ熱帶各地方ノ其レト同シク一ノ自然
富源収集ト云ハカルマカラ不殊ニ四面海ヲ控ヘ海
岸線ニ由ル本群島ハ一層本業ノ有利ナル
ヲ想像セシムルニ足ル先年本島政府ノ調査シ
タル比律賓島^{セレンガサ}ノ記載スル所ニ拠レバ本群島
住民ノ約九割ハ魚類ヲ以テ肉食ノ主タルモノトナ
シ其消費額ニ至リテハ精確ニ之ヲ知ルコト能ハサ
ルモ魚類ノ供給十分ナル地方ニ在リテハ一チ年一家
族ノ消費高^ト約八百封度ニ達シ全群島ニ於
テ一チ年約五十萬噸ノ魚肉ヲ消費シ其從業人魚

企業家中一モ之ヲ願ミルモノナカリシガ去ル四十二年十一月
 月中米國人ノ^首唱ニ儼リ古市ニ此律^廣漁業會
 社ノ創立ヲ見^一時最新式百九十八噸ノ汽走トロー
 ラー一隻ヲ用ヒテ^一沿山岸^一漁業ヲ營ミタルコトアリシモ
 經營宜カラサル為メカ其後同モノナク^{解散}散^一ト^一到
 之レト前後シテ本邦人及此島人合同經營ノ下ニ
 南洋ス^新トローラー^一漁業株式會社^{設立}ヲ見タルモ未ダ
 本邦ヨリ之ニ使用スマキトロー^一汽船ノ廻航ヲ見カ
 ルカ為メ着手ノ運ニ至ラカレドモ此程未^一其第一着
 手トシテ採捕^一漁業ヲ開始セントスル計画ナル中ニ^庫
 ケリ^水昨年^一当方面ニ於ケル^一實地^一觀察ノ為メ廻航シ
 タル我水産講習所々屬ノ練習船雲鷹丸實地
 踏査ノ成績ニ徴スルモ当地近海殊ニマニラ^一湾口
 カバリヨ^一島ヨリ^一スビク^一湾ニ^一據ケテ^一ノ^一帶ハ^一得^一未^一有
 望ナル^一漁場ト目セ^一ル^一處^一多ク^一以テ^一此際^一漁獲物ノ
 貯藏^一旁^一樹^一方法^一等^一劃^一策^一經營^一宜^一シキ^一ヲ^一得^一バ^一大ニ
 成功^一ス^一ベキ^一モノト^一期^一待^一セ^一ラ^一ル

第二節 真珠採貝業

真珠貝ノ產地ハ本群島ニ在リテハ南端スル^一列
 島^一ホ^一ト^一附近^一ノ^一海^一底^一ヲ^一以^一テ^一其^一中^一心^一ナ^一リ^一ト^一認^一メ^一ラ^一レ^一目
 下我邦人ノ經營スルモノ^一尠^一ナ^一カラ^一ズ^一稀^一ニ^一米國人
 支那人^一極^一ノ^一三^一ニ^一從^一事^一ス^一ル^一モノ^一ナ^一キ^一ニ^一アラ^一カ^一レ^一ド^一モ^一潛^一水^一ノ
 業タル我邦人^一独特^一ノ^一技術^一ニ^一屬^一シ^一殆^一ド^一我邦人ノ
 勢力^一圍^一收^一ニ^一屬^一ス^一ル^一モノト^一滑^一マ^一シ^一目^一下^一我邦人^一中^一大
 仕^一掛^一ニ^一テ^一從^一事^一シ^一居^一ル^一モノ^一ヲ^一縣^一路^一真^一珠^一採^一収^一會
 社ト^一ス^一比^一律^一廣^一法^一律^一ノ^一下^一ニ^一組^一織^一シ^一タル^一一

44

法人ニシテホリコロニ在リ

本島ノ未開領有以來政府ハモリコロニ蛮族保

護ノ目的ヲ以テ千九百四年六月一ノ法律ヲ制

定シ米比西國人若クハ比島法律ノ下ニ組織

セラレタル法人以外ハ真珠採具ノ許可ヲ受ハ

サルコトナリ居リ隨テ本邦人モ亦全法律ニ基

キ一法人ヲ組織シテ盛ニ本業ニ從事シ居ルコ

トハ後段第九章程ニ記述スル所アルベシ

本邦人経営採具船ホリコロ港ニ集合皇

三十七号

三

三十八号

在マニラ日本領事館



修正

第六章 鑛業

比島ノ鑛物ハ高貴上キ夫ノ多クノ傍値ヲ有スルニ至ルモ富其物ヲ包含スル莫クテ決シテ者過スルカラス天宝库ト云ハルヤラス其色ニ發見サレルモノトシテ金、石炭、銅、鉄等アリ而シテ産額ノ最モ大ナルモノヲ

金トス
金、未開國ニ於テハ金鑛ノ發見ハ多ク、場合ニ於テ向一型式ニシテ先ハ島前ノ由發見^者ハ土人ハ金ヲ此節トスル等多ク器物ヲ有スルヲ見一ノ實歴ハ忽々千ノ盛況トシテ本國ニ傳播シ企業家ノ胸ヲ發シカ^ルセリ然レハ比島ノ場合ハ稍其^有越^ルノ異ニシテ土人ハ西曆三世紀ノ頃支那人ト交易ヲナス迄^テハ己ニ金ヲ使用シ又銅ヲ金ニ此人^ハル^ルノ術ヲモ悟リ古ヨリ本品ノ傍値高ク由貴重ナルヲ知リ得

本マニラ日本鑛業

よりシカ如シ^ルハ^ル兒^モ南^現今^土人^ノ多^ク、沖積鑛床ヲ採掘スル^ハ在^ル也又水洗方法(Broming)ハ^ハ岩窟採集^ハ方^法ニヨルモノナキ^ハ非^ズ、往^時西^班牙^人ノ^本島^鑛業^ヲ入^ルル^ニ起^ル味^ヲ精^製シ^テ各^種ノ^研究^ヲ積^ムル^トシ^テ一^部、英^國人^又米^國領^島以^前ノ^精細^ニ調^査シ^テモ^トアリ^シモ^本島^政治^上ノ^位置^ト島^内ニ^在ル^ノ不^定ニ^ハ依^テ親^シク^本業^ニ昔^年ノ^スル^ニ至^リ止^ムニ^シテ^ハ其^後米^領ト^ナリ^米人^ノ各^地ニ^在ル^スル^ト共^ニ金^鑛業^ハ俄^ニ發^展ス^ルニ^至リ^シ現^在ノ^主ト^シテ^ハ金^鑛所^在地^ハCamboja外、Paracale及Manila等^地方^ニテ^ハ運^轉中^ノ製^煉所^ハ二箇^ハBaguio及Itan-Benguet^地方^又金^産地^ニテ^ハ數^箇ノ^製煉^所アリ^シ、其^中ノ^最大^{ナル}モノ^ハHeadwaters Mining Co.ト^シテ、The Stamp Mill & Cyanide

二十、檳榔

青化銀金工場

すばしチ有セリ其他 *Susac, Anway, Porostrukio* 地方
は百多サノ金ノ産あり尚 *Neave Feija* ニサ許
ノ白金ノ産 *トナラ*

鉄、鉄ノ *Ambo* 地方ヲ初メ其他島内諸所ニ多サノ産也
Camurves

ナキニ流ルモ *Neave* 島西部、連山一帯ヲ以テ最モ著名ナリトス

Bacoma ニ流テ、現ニ溶解作業實施サレ數箇ノ粗雜ナル

爐ヨリテ尚一ト手ノ數千ペリ、鉄鉄ヲ製シテ凡溶解ニハ

炭及生鐵ヲ使用シ未ダ鉄鋼ニ至ラズ、*ニラズ*

石山皮、石炭、島内多クノ場所ニ於テ発見セラル在来

土人ノ薪材ノ豊富ニ於テ、其他他家ニ事用以外燃料ノ

必要ヲ多ク感セラル以テ未ダ汎ク石炭ノ上真價ノ事知ルニ至ラズ

比島石山皮ノ質、褐炭乃至半有煙山皮ノ者等ノモノナリ

Mindanao 地方ニ於テ天見 *サリル* 山皮最モハ十四ノセントト云フ

在マニラ日本領事館

ヲ除キ多ク、四ハ乃至五四ノセントノ山皮量ヲ有スルニ至ル也

本業未ニ西班牙領島以後、二百年ノ間全ク棄テ、廢シ

ラシチ、*ニラズ* 漸ク、*ニラズ* 年々採掘ニ着手セシメ

トス其後本島石炭ヲ一箇ノ商品トシテ、*ニラズ* 官民

共ニ各種ノ方面ヲ講スルトモ、*ニラズ* 島 *Davao*

Compostela 山皮ニ於テ、石山皮運輸用トシテ、*ニラズ* 内地

ニ鉄路ノ布設ヲナス等、大ニ熱心ナリシモ、*ニラズ* 年内乱ノ災

ク此等産業ヲ破壞シ去リ、大風一掃、爾来又四五月ノ俤

ヲ見ルニ、*ニラズ* 現作業中ノモノトシテ、北方 *Batavia* ノ小島ニ於

ケルニ規模ノ採掘アルニ、*ニラズ* 一箇ノ産量ヲ數ヶ月間米回

陸軍部ニヨリ、經營セラルシモ、結果大回カラス、*ニラズ* 閉モヤク閉鎖

スルニ至リ、他ノ *East Batavia Coal Company* ハ、*ニラズ* 年々採

掘ニ着手セ、*ニラズ* ガ之ノ又、*ニラズ* 得ズ破産シ

ノ

ノ

目下二傳債権者ニシテ管理トモあ如き有
 様ナリ兩者共田舎概及作業ノ方術ハ新式ニシテ甚シ經營
 且レキリ得ニカ将来有欲シモト認メシルハ比島政府當
 テ同島産物石炭ヲ四頁上ノ所屬船舶用ニ使用シタルニト
 アリカ公カ用ニ足ルト云フ、其他呂宋島 *Mancayan*
Swags 地方ニ古ヨリ銅ノ産物アリテ西班牙人土人等
 極テ勿新ナル方術ヲ以テ之カ故其ニ從事ス事ノ銀ハ
 前記金銀ニ於テ少額ナカシ全銀混交採集ナリ
 銀鉛鑛又ニニナキニ云フ

滿庵、滿庵鑛、近年 *Dangasinan* 及 *Masbate* 州
 此ノ発見ヒシルモ現行関稅規則ノ上ニ於テ凡テ鑛
 物ヲ輸出スルニモトキハ五噸ニパンノ埠頭稅ヲ徴收スルニ
 凡テ以上ノ日本ニ向テ輸出スルモノハ其ノ埠頭稅

極上等トシテ十三ノ位ニ轉カスルコトモ有リ
 大平洋山岸ノニ於テ地方ニ對シテハ每噸、十パンノ運賃ヲ要シ
 外ニ前記ニ於テ埠頭稅ヲ要ストモ餘スルモノ僅ニ一パン
 ノ利得ノ得ヤスシテ未カ高業的ノモノトスルニ足ラズ又前記
 鐵鑛ニ對シテモ之ト同様ニテ前日ノ本邦ヨリ西班牙田農
 高砂技師 *Andross* 州 *Mambulao* 附近ノ一島ニ於テ鐵
 鑛ヲ視察スルニトアリカ今之ニ一噸四パン半ニテ本邦ニ
 向テ輸出スルモノトモ其ノ中五千仙ノ鑛區使用者ヨリハ
 納金トシテ仕拂ヒ又ニ前記埠頭稅ニ仕拂ヒタルト
 餘ス所僅ニ二パントナリ之ニ鑛業費金事業場
 及利得ヲ見積ラカルカラカルヲ以テ大平洋島關係者ハ
 本稅ノ輕減又ニ廢止ヲ提唱スルモ未カ實行ヲ見
 ルニ至リ思フニ本邦ノ如キ鐵鑛ニ乏キ國柄ニ取リテ漸次

海嶺

澤田

此方面ニあるノ諸産物ノ統計ヨリ得ルニ
本島ニ在ルニ鑛産物ノ統計ヨリ得ルニ
ヲ拂フ

鉄	未詳	一七、五〇〇	三二、〇七八	二〇、〇三三	二九、一五九	四九、七二
銀	九七	二、七五〇	一	一	三、六〇六	八、六六四
銅	八七、六四七	四、四、五〇〇	四、九、五五五	三、八、八六〇	三、七、九九六	一、四、〇、四三四
滿庵	一	五二	一、二、五〇〇	一	六〇〇	一
小計	八七、七四四	四、五、四八〇	五、八、七三三	三、八、八八三	四、三、三七一	一、九、八、三六〇

一九〇七年 一九〇八年 一九〇九年 一九一〇年 一九一一年 一九一二年

石炭	二六、七九九	七、七、六六六	一、九、七、一、四〇	一、七、六、三、五五	一、三、〇、〇〇〇	一、三、〇、〇〇〇
佐土	統計ナシ	四、三、一、六八	四、三、六、八四〇	四、三、〇、〇〇〇	四、五、〇、〇〇〇	四、五、〇、〇〇〇
石灰	〃	二〇、〇〇〇	六、九、六、六六	七、〇、〇〇〇	九、〇、〇〇〇	九、〇、〇〇〇
砂利	〃	二〇、六、三、六〇	三、三、五、〇、五〇	三、九、三、四、五六	四、七、七、三、四四	四、七、七、三、四四
石	〃	一、四、九、九、三〇	三、一、一、七、七七	三、七、三、五、七五	六、五、五、七、九五	六、五、五、七、九五
倉塩	〃	統計ナシ	三、七、五、三、三六	三、八、〇、〇〇〇	五、五、〇、〇〇〇	五、五、〇、〇〇〇
小計	二六、七九九	八、七、五、〇、〇四	七、〇、六、二、七五	一、七、三、三、八六	二、三、五、三、一、三九	二、三、五、三、一、三九
統計	二、四、五、四、三	二、三、三、九、八、八三	二、二、四、〇、〇四七	二、〇、五、一、三、三九	二、七、六、六、四、一〇	二、七、六、六、四、一〇

長谷

第七章 林业

林産物、農産物に相俟、比島自然産物ノ主要部
 ぶらぶらモミシラチ局諸價新用高品の價値アル木材、
 然有高同ラ大島等、
 鐵木ハ、ハル西ガ木林ノ面積ヲ全島ノ約三分一即
 チ四百〇〇平方呎ト云々也リ本林ノ大割ニテ Dipterocarpaceae
 林、Melane 林、Pine 林、Mangrove 林、Mountain-Top 林
 ノ五帶ニ分ル而シテ最終ノ一帯ノ水深淺表ニ保林ト
 ナリ第一帯林、全島林面積ノ四分一ヲ占メ最モ經
 濟的價値アル熱帯木材ニ富シ其ノ代表樹トシテ Jacaral
 樹アリ Mindanao 島、Jebu 島、呂宋島ヲ以テ中心地トス
 其第三帯ニ屬スル木材又品質ノ高尙優美ナルヲ以テ内島セ
 レ、款中 Jacans 樹、如キ高等家具用材料ト使用セシ
 ヲ

而重要中々大ナリ、現行ノ伐林業ノ沿岸近ク、花ハ
 本林林主ト行ハレタリモ、其地熱帯ノ使シテ永續セラルバ、
 将来ノ五哩乃至三十呎ノ内地ニ深ク、
 必要アリ

比島森林ノ大部分ヲ占ムル公有林ニ進ム、経営弁心林
 局、
 便宜上内務部七カノ花シテ令ニ、借林申請ノ条件ヲ取調シ、
 中、墾育シ、其許ルニ決シテ夫レ以上ノ地域ニシテ、墾育シ、
 ノ方法ヨリ一、
 又一方ハ、
 法アリ、
 三、
 市、
 定

50

形事ヲ計算スルニ僅々一〇〇ニテ五仙ニ過キルコト又以テ如
 何ノ新業ノ利益アルヤヲ知ルニ足ルベク現下南洋州支
 那、日本等ノ市場ニ於テ年々雨ノ要アルニシテ
 一ノ味ノ重利加材ノ如キハ宜シク比島ノ供給スベキ
 モナラシカ之ヲ外ニ道ニテ米園市場其他ニ對シテ木節
 家具用材料タル木材供給ノ為ニ得ル多ク論コトス
 護護及ツカタルルヤハ栽培業、古里ヲニテ先ニ護護裁
 培難ク且最近数年間ニ異常ノ天障ヲ為シ殊ニ
 比島ト隣スル馬東半島ホルネラ、蘭領印交等ノ諸
 島ヲリテハ已ニ重利ノ一カニシテ護護園ヲ有シ其收
 益又莫大ナクトモ比律島ノ群島ニ於ケル各種ノ事情
 ハ不吉ニシテ今尚ホ本業ヲ甚微不振ノ情能ク置置
 一今日迄ノ施設トシテ、南呂宋、ネグロス、ハカイ、ミンロ
 ミシカチオ、諸島、Pavia及Castilla種ノ栽培業ニシテ
 コガ気候ト地味ト決シテ不良ナラズトテ結果ハ相宜佳良
 ナルヲ示シ又(Com)種ハ島内ノ何處ニ於テモ栽培ヲ
 シ得リシモ毎年ノ本島ノ強風ニ堪ユコトヲ難ク
 ヲ語ニシテ而シテ現今ハ比島ヨリ海外ニ輸出スル護
 護ハ其量微々タルモノニシテ數フルニ足ラス
 帝カ問題ヲ別トシテ比島ニ於ケル護護ノ植付及
 採汁ノ事業ハ前記ノ如ク決シテ絶望トスルコトヲ難ク
 ト心憚ナラズ且バPavia及Castilla種ノ樹ハ何れも開澤ナル
 雨量ト強風ノ防備ヲ必要トスルモノニシテ此ノニ失ツテ
 本島ニ於ケル其護護栽培ノ起ラサル所以トモ
 比島ノ又久シキものガ父ルニヤレノ供給者トシテ世界
 知レザルニシテ一ノガ工人ノ一ノ夜方也、此ノ粗粒

加藤

結果、人々や海岸附近に住宅を建設せしむる全高層ラ
 消費の生産漸く減退し、修繕の必要あり、かつ、修繕の
 困難なるものあり、前者の彈力より有るものと異なり、其の
 軟性も強固な抗水力より、より電気事業に使用し
 るに足り、而も價格の廉潔、約半額に、内地に比し
 粗つて、半分の、三、四百、乃至、五、六、年、の、耐用
 性、を、有る、こと、が、島、の、西、部、地、方、に、於、て、之、が、主、産、地、と、す

52

第八章 工業

本島の尚、未だ天産物開拓ノ時代ニ屬シ、殊ニ
 工業ノ原動力トナリ得マキ、河川激流ニ乏シク
 又石炭及モバタン炭石、以テ未だ、産出ヲ見ガ
 ルが如キ有標ナルヲ、各般ノ工業、免角新
 式輸入機械ヲ使用シテ、熾ニ、各、國、ト、競、争
 シ、得、ベキ、程、度、ニ、達、セ、ズ、唯、傳、來、ノ、旧、慣、ヲ、墨
 守、シ、茶、産、類、ハ、進、歩、ス、ル、状、態、ニ、在、リ、然、レ、ド、モ、此
 島、産、業、が、漸、次、開、発、ス、ル、ト、共、ニ、製、造、業、ノ、動、機
 興、シ、來、ル、自、然、ノ、數、ナ、リ、事、ハ、サ、ル、ヤ、オ、モ、現、下、一、般、家
 政、器、具、織、物、如、キ、種、類、ヲ、以、テ、先、進、國、タ、ル、改、米
 日本、業、ト、競、争、ス、ル、ハ、殆、ド、不、可、能、ナ、ル、ハ、明、シ、レ、テ、本
 島、ニ、於、テ、傳、來、茶、産、ノ、見、込、メ、ア、ル、モ、公、認、ス、ル、ヤ、キ

在マニテ日本領事館

農産物ノ加工輸出井ナリ此種物類ノ第一ハ
 煙草ハ其ノ主要ナルモノニシテ己ニ年々巨額ノ
 製出輸出ヲ見ツアリ煙草工場ノ大部分ハ本島
 資本ヲ以テ經營セラレ其ノ製造方法ハ今ヤ決
 シテ侮ルマカラサルモノナリ本島ヲ除キテハ
 遠く製造業ハ尙微々タルモノニシテ偶々二三精
 練工場東由製糖場ナキニ非モ數フニ不足ヲ例
 令ハ麻ノ如キ木指年々輸出高ニ三萬圓ノ
 ニ達セシモ其ノ製糖高ハ僅ニ六萬圓ノ
 過ズ免ハ云々又觀来レバ製糖製紙精糖柳
 子油製造ノ諸業ノ如キ其ノ原料タル農産品
 津々タリヨリ考フルトキハ將來ノ進歩又察スル足ル

モノアラン、第二ハ麻、鳳梨樹等ノ纖維植物ヲ材
 料トシテ製作スル帽子、筵、蓆等各種ノ家内手工
 藝品ニシテ現時此等事業ノ製造方法ノ幼稚
 尙ハヨリ其ノ材料ノ豊富優良ナルニモ其ノ
 向ニ声優ヲ博スルニ至ル有様ナリ茲ニ於テカ統
 督府ノ夙ニ實業補習学校ヲ各地ニ設ケ青年
 男女ニ別記諸品製造ノ新法ヲ授クルコトニ苦心
 シ近クハ其ノ製造ノ實業樹ノ目的トスル官設陳
 列場ヲマニラシキニ達テ以テ其ノ公衆ニ紹介シ勉
 メツアルバ將來ハ内外相應シテ本島ノ一産業
 ヲ形成スルニ至ルマキカ

今本島労働局ノ基礎調査ニ依リ九月百十
 二年度會統計ニ依リ本島ニ於テ現ニ如何ナル

24

54

種別ノ製造工場種類		数	投資額	使用人員	仕掛材料	製造額
工場種類	数	一〇二五五三	一〇二五五三	男 六六〇 女 五九	二〇四二七一	一〇七五八八二
槐材工場	一五	六六〇	六六〇	男 二九五 女 二五	四四二八二	二〇三四元
制衣革所	一八	一八九九二七二	一八九九二七二	男 一六〇 女 一五	八九二二二	一八九一四六〇
酒造場	二七	六八八〇	六八八〇	男 一〇四 女 一	三〇九四二	一三八三三五
炭酸水製造場	二二	七五八〇	七五八〇	男 一〇八 女 一	二五二七六	七四一九七
煉瓦鋪石製造場	七	五四〇	五四〇	男 二八 女 一	九三二四	四九五〇二
箱製製造所	九	一四八	一四八	男 三六 女 一	八八六	三六七三
石灰製造所	九	四四三二七	四四三二七	男 一〇七 女 一	三五五二〇	三三三三〇九
菓子製造所	三四	一〇一八四三	一〇一八四三	男 四八 女 八	一四〇八七三	五四三二九
上靴製造所	二〇	五八三三	五八三三	男 一〇九 女 一	三五七七七	三九四八四
手品製造所	二〇	一九五三四七	一九五三四七	男 五九 女 二	一五七五三七	四五七四三
馬車製造工場	一五	二二二五	二二二五	男 一〇 女 一	三三三〇	七〇〇三
樂器製造所	八	七八八五〇	七八八五〇	男 二二 女 一	三六八〇五	七二五三四一
石鹼製造所	三五	二五四五三	二五四五三	男 七二 女 一	三五六一一	一四三八一四八
家具製造場	二九	二五四七二	二五四七二	男 二九 女 一	一八七二二三	一三四五〇九三
パン菓子製造場	八八	三七八一〇	三七八一〇	男 二九 女 一	五二〇二	一七二二三〇
製塩工場	二二	二二二四	二二二四	男 二九 女 一	一四二七四	一一九四四五
帽子工場	九	二二二四	二二二四	男 二九 女 一	二一八三〇四九	二二〇二五二五
煙草製造工場	五三	一八一七二四	一八一七二四	男 三三 女 一	九一三五七	四一九四〇
靴製造工場	六二	七四三九	七四三九	男 九七 女 一	二二二六〇	一三三三三八
鋸力工場	三〇	五〇一七三七	五〇一七三七	男 四二 女 一	一五九四四四	五九四一九三
印刷石版工場	一五	一二四八	一二四八	男 二五 女 一	一三五九〇五	二二六六五三四
精米所	九	九八三三三	九八三三三	男 三三 女 一	三〇一七四三	七二九五一五三
精糖工場	九	一二九六五	一二九六五	男 四三 女 一	一五七七九	二九三〇四
馬具工場	一一	二二二五	二二二五	男 一〇 女 一	三三三〇	七〇〇三

修正

54

25-92

鑄造所	一五	一七、一七〇	男 三九八 女 一三二	八八、八九〇	三三、三三三
機械工場	一〇	三三、〇〇〇	男 二五六	九八、一八三	四二、五六一
鑄鉄機械工場	五	八七、八六七	男 五二〇	五二、〇九七	一三、七九、五八〇
鈕釦製造場	二	五六、〇〇〇	未詳	九、六三三	五、一〇〇〇
製鉄工場	二	四二、五〇〇	未詳	三一、六九九	二九、五〇〇
鉄工場	五二	一九、六四〇	男 三三七	四一、四五六	一六、七、七六二

第九章 本邦人經營事業之概況

今本島各地に涉り、衛生製造所ヲ有シ又ハ製菓或ハ
 漁業ニ従事スルモノニシテ、今年ノ取引甚多買製製造
 漁獲高一萬四、千上アリト云ハヤキ本邦人又ハ商社
 ノ氏名ヲ列舉スレバ左ノ如シ

マニラ、 貿易業	三井物産株式会社出張所
マニラ、 貿易業	伊藤忠兵衛商店出張所
マニラ、 貿易業	田川商店
マニラ、 貿易業	太田興業株式会社出張所
マニラ、 貿易業	日本バカー
マニラ、 貿易業	大坂バカー
マニラ、 貿易業	松井商店
マニラ、 貿易業	並河バカー
マニラ、 貿易業	大阪バカー
マニラ、 貿易業	園田商店
マニラ、 貿易業	福田商店
マニラ、 貿易業	野口商店
マニラ、 貿易業	シヤバニスバカー
マニラ、 貿易業	横浜雜貨店

時計商	小川商社
本邦雜貨輸入先卸業	本邦先商社
礦業	南洋スズム澳業株式会社
硝子製造業	山田硝子工場
本邦雜貨輸入先卸業	鶴田商社
オロシガホ	中川商社
同上	早川商社
バキマ、同上	村上商社
イロイロ、同上	富川商社
同上	日本バカ一出張所
セブ、同上	阪本商社
カンボア、同上	
貿易業	太田興業株式会社出張所
本邦雜貨輸入先卸業	宮本商社
パシラン島椰子樹栽培業	牛村清次外一名
ホーロー、真珠採貝業	蘇洛真珠採取株式会社
タバコ、麻及椰子栽培業	太田興業株式会社
同上	ミコカナラ農産物株式会社
麻栽培業	南ミコカナラ拓殖株式会社
同上	カダナン農業株式会社
珈琲栽培業	繁沢商社
アルハイ、カスロ	
製紙原料切出業	村岡商社
前記記載ノ内ニテ直接本島ニ於テん産業ヲ經營シと若クハ近ク着手セントスルニテノ代表的會社若クハ	

箇人ニ就キ其事業ノ一斑ヲ畧記センニ尤ノ如シ

第一節 農業

太田興業株式会社

今會社ハ南新大島タルミンカナラ島カバラニ本社ヲ有シカンボアンガ「マミラ」及神戸ニ出張所ヲ設ケ麻及椰子樹ノ栽培ヲ世帯トシ傍ラ輸出入元ニ商業ヲ興業ヲ管之明治四十年五月ノ創立ニ係リ資本金拾万円ノ払込済額五万円ノソナレドモ既ニ積立金額十万円ノソ有シ盛ニ本邦人元ニ出人ヲ使用シ現下本邦人ノ經營スル農事會社中ノ牛耳ヲ執リ今會社經營事業ノ現況ヲ述ベシトス

十 農業

麻及椰子樹ノ栽培

土地(所有地)租借地

既開墾地(麻)

此植付樹數

同 全社直營ノ分

カ作ノ分

既開墾地(椰子樹)

此植付樹數

目下麻栽培ハ主トシテ小作法ニ依リ椰子樹ハ専ラ直營トシ毎年増植シツアリ

麻、コアラ、アルマシカ(樹脂)、ルンバン、家蟬ノ買入ト米、砂糖、麥粉、其他日用品ノ卸賣トナス(子年ノ取引高)

千ニ拾四ヘクタレス(一町歩ニ約百)

百ヘクタレス

五(町歩)

約五(町歩)

約百(町歩)

約四百(町歩)

一(町歩)

班

鈴木

517

約七十二万トス

一、マニラ出張野ノ管業

麻其他土産物ノ賣買及輸出、日本品及米國品ノ
輸入、鉄道枕木ノ賣込ニ従事ス(一々年ノ取引高百

万トニ達セリ)

一、サンボアンガ出張野ノ管業

麻及ビコアラノ買入、真珠貝、高瀬貝買入、鉄
道枕木製造(一々年取引高十万トス)

一、神戸出張野ノ管業

マニラ麻其他土産物ノ輸入、日本製衣服ノ輸出(一々年
取引高約二十万ト)

一、演業

極メテ小規模ニシテ目下ノ野僅ニダバオ町需要ノ

在マニラ日本領事館

一部ヲ供給スルノミ

参考トシテ今會社耕地ノ實際ニ基ク日本移民

一名ノ麻耕作ノ收支計算ヲ示セバ尤ノ如シ

一人ニテ耕作シ得ル面積ハ平均ニ町歩トシ麻貳千株
ヲ植付クルモノトシ与幼ニ々年間ノ支出高ヲ掲ゲンニ

支出

一金六十円 種苗二十株代

一金三十四円 小屋棧用材料ニハ八藤代

一金二百四十円 労働者一人ニ四ヶ月間ノ食料賃金

一金十四円 斧、ボロ、砥石代

一金百二十四円 労働者一人ニ四ヶ月間衣類其他諸雑費

合計四百六十四円也

〔備考〕右ノ内種苗代六十四円ハ他人ノ耕地ヨリ種子トシテ

購入スル場合ニ限ルモノニシテ附近ニ於ケル麻山ノ一部分ニシテ七八年以上ヲ経タル麻樹ニシテ植直シノ時期ニ近キモノヲ立木ノ修買入レ麻ヲ挽キ跡ニテ種苗ヲ取レバ其代僅ニ數四ヲ費スノミニテ足リ又食料及ビ雜貨モ二十四ヶ月分ヲ計上スレバ概シテ外ハオ地方ニ至リテハ十八ヶ月乃至廿四ヶ月ヲ以テ第一期収獲ヲナシ得ルヲ以テ約ニ割方ノ減少ヲ見ルマシ

第一期収獲 (第三年目)

本期ノ収獲ヲ二十擔トス但シ毎千株ヨリ拾擔ノ割目下ノ相場ヲ一擔三十四替トス

一金六百四也 二十擔三十四替

内六十四ハ作料

百二十四ハ二十四ヶ月分食料

六十四ハ二十四ヶ月分雜貨

本マニラ日本領事館

計二百四十四

差引金三百六十四

金四百六十四也第一期収獲迄ノ総支出額中繰込

差引金百四也支出金超過

第二期収獲 (第四年目)

本期ノ収獲ヲ第一期ノ倍額トス

金千二百四也 四十擔三十四替トシテ

内百二十四 作料

百二十四 二十四ヶ月食料

六十四 二十四ヶ月雜貨

百四 第一期ノ収獲後支出高残り

合計四百四也

差引金八百四也 本期ノ純収入金

第三期収獲(第五年度)

本期ノ収獲ヲ四十擔トシ三十内替トス

金千二百四也

収百二十四 小作料

百二十四 十二ヶ月分食料

六十四 十二ヶ月分雑費

計三百四也

差引金九百四也 純収入金

第四期収獲(第六年度)

本期収獲ヲ四十擔トシ三十内替トス

金千二百四也

収百二十四 小作料

百二十四 十二ヶ月分食料

六十四 十二ヶ月分雑費

計三百四

差引金九百四也 純収入金

第五期収獲(第七年度)

本期ノ収獲ヲ三十擔トシ三十内替トス

金九百四也

収九十四 小作料

百二十四 十二ヶ月分食料

六十四 十二ヶ月分雑費

差引金六百三十四也 純収入金

第六期収獲(第八年度)

本期ノ収獲ヲ二十擔トシ三十内替トス

金六百四也

在マニラ日本領事館



内六十四 小作料

百二十四 十一月間食料

六十四 十二月間雜費

差引三百六十四也純収入金

第七期即第九年度ノ収獲ハ通常十擔乃至十五擔

ヲホデサルヲ以テ本期ニ至リテハ植直レシヲ以テ際テ

口利益トス

今九ニテ一期収獲法ニ於ケル収支額ヲ累計セバ次ノ

百四 第一期資金支取残り(損失)

八百四 第二期純収入高 (利益)

九百四 第三期純収入高 (利益)

九百四 第四期純収入高 (利益)

在マニテ日本領事館

六百三十四 第五期純収入高 (利益)

三百六十四 第六期純収入高 (利益)

差引三千四百九十四也

八ヶ年間ノ労働ニ対スル純収入ニ相当スルモノヲ年

平均四百三十四強ニテ平均三十二四強トテ

右ノ衣食住ノ諸費用ヲ控除シタル純収益ニ相当

スルヲ以テ無資本ノ労働者ニアリテハ平均以上ノ成

績ト云ハカルベカラズ通例ニ名若クハ三名組合ヒ一名ハ

定期間他ノ使役セシ組合員ノ食料雜費ヲ儲ク

ル事ヲ得ルヲ以テ事業ニ於テハ極メテ僅少ナル貯金

サハアラバ一己ノ小作經營ヲ為ス事ヲ得ルニ特ニ全倉

社ノ勤勉ナル勞働者ニ対シ種々代食費其他シ

貸支スル途ヲモ開キ居レリ

67
下

今仮リニ本業ヲ資本主ノ直管スルモノトセバ第一期
ノ植付諸入費ニ於テ虧ナラトモ二割乃至五割ノ増加
即チ他人ノ為ニ僱役セラル、勞働ト自己ノ為ニスル
モノトノ間ニ於テ凡仕事ノ差ヨリ本カハ増加ヲ見ルノ
ミナラス殊ニ全収獲ノ半額ヲ勞働者ニ折半スル
慣習ナルヲ以テ實際資本家ノ収入トシテハ前記
計算ノ約三分一ニ減少セラルレ之ニ對スル救済法ト
シテハ勞力ノ供給十分ニシテ其需要ヲ超過スルカ
或ハ完全ナル製麻器械ノ発見ニ待ツ外今日ノ場
合他ニ良法ナシトス之全會社ノ如キ主トシテ麻栽培
ヲ小作法ニ取ル所以ナリトス

第二節 眞珠採貝業

蘇洛眞珠採取會社

ホーケー近海ニ於テ日本人ノ眞珠採集ニ從事セシ
ハ去ル明治三十八年濱村伊助ナルモノ濱洲ホートガイ
ウ井ノヨリセブ島ヲ經テガンホアンガニ來リ本業ヲ
開始セシニ始マレリ次デ三十九年蘇洛縣田辺所
設ニセラレタル此律濱洲業會社有、濱船三
隻及田興業會社有、濱船三隻、其成
績頗ル良好ナリしが當時米國人支那人等ノ經營
スルモノ又數隻アリテ何レモ相當ノ収益アリ然ルニ
本業ハ日本人獨得ノ技能ヲ有スル故ヲ以テ果テ後
進シテモ彼等外人ハ孰レモ漸時衰運ニ向フト全
時ニ日本人潛水夫タリシモノニテ其尙多少ノ蓄財ヲ
有シ本業ヲ經營スルモノヲ生ジ其船數モ次第ニ増
加スルニ至レリ茲ニ一障礙トセシ本島ノ法令ニ

62

28

外國人一般ニ此島市民権ヲ獲得シ得ルノ故ヲ以テ直接本業ノ經營者タルヲ許サレ不故ニ之ニ從奪セントスルモノハ已ラ得ズ此島人若クハ米人ノ名義ヲ以テセカレ可ラ不斯ノ如キハ事業遂行上最モ不便不利益トスルコトコトナリテ種々考究ノ結果日本人ノ所有スル採取船ヲ一團トシ是レニ米國人一名ヲ加ヘ法人組織トナスヲ以テ最モ利益ノ得タルモノト認メ志ル明治四十二年資本金五万トシテ株式會社ヲ設立シ以テ現今に至リ右ノ如ク會社ハ表面ノ便宜上設立シタルモノナレバ其實際ノ經營者ハ各個人ニ別シ其資本金額ノ如キモ拾五万四以上ニ達シ會社名義ノ船數二十八隻又ニ及ビ尙將來益々増加ノ傾向アリ其他米國人名義ノモノ四隻又太田興業會社名義ノモノ二隻

在マニラ日本領事館
 十

船籍及船主別ハ左ノ如シ	
スルノ真珠採取會社所屬	
八隻 中村清次	六隻 西田綾太郎
五隻 吉田熊雄	二隻 古川善二
二隻 大谷延一郎	一隻 谷口亀之介
一隻 中村作松	一隻 榎井利吉
一隻 武田序二郎	一隻 白石政彦
太田興業會社所屬	
一隻 今西秀三	一隻 大谷延一郎
ガソボアノが米人所屬	
一隻 松本長次	一隻 芝善太郎
一隻 大井徳松	一隻 廣定光
池崎友三郎	一隻 武味松三郎
	一隻 田良輔

合計三十四隻

現時全近海に於ては真珠採集船數五拾隻及び日本人三十四隻、支那人十隻、他ハモリス族及びアラビヤ人ナリ、全會社事業ノ現況ハ頗ル良好ニシテ、今年平均一隻ノ収益高一萬三千餘金ニシテ、經費六千四餘金ヲ引キ去ルトキハ純益金七千四餘金ヲ得マシ茲ニ經費ノ詳細ヲ示セバ尤モ如シ

一隻ニ付乘組員ハ潜水夫一名、繩技一名、船夫五名、計七名ニシテ、其傍銀ハ潜水夫採取員一匹、ハル十四真珠採取高ノ一割五分ト外ニ手当金トシテ一月二十四ヲ給スレバ潜水夫一月ノ收入約百五十四ヨリ二百四ヲ下ラズ繩技一月五十四船夫日本人一月二十五四ヲ給ス

目下乗組人員日本人百六十名他ハ悉クモリス族及比島人ヲ以テ補充ス

本業ハ其生産地帯ニ限リアレバ目下一割之ヲ二倍スルモ差支ナキ事トシテ、上ノ増加ヲナスノ余地ナキモノ、如シ

第三節 トロル澳業

南洋ステム澳業株式會社(設立後)

全會社ハ去年十四年十月比律賓政府ノ許可ヲ得テ設立觀タルモノニシテ、本邦人先ニ比律賓人會社ノ資本ヲ以テ組織シ、其資本金總額ハ比貨十萬、ヤン收込込額五千四ニシテ、每一株式十ヤン宛都合五千株トシ、其收本邦人ニ於テ三千株ヲ買據シ、残り二千株ヲ比律賓人ニ於テ分擔スル割合

別

ナリ其際令會社ノ発表シタル目論見書ヲ見ルニ
 其目的タルヤ米領マニラ灣外ニ於ケル「トロー」
 漁業及比律賓沿岸ニ於ケル海産鱈漁業各
 種ノ採貝並ニ海産物ノ賣買ヲ主タルモノトシ先
 其第一期事業トシテマニラ灣外ニ於ケル漁業ヲ
 受クニアリ一月ノ作業日數平均二十日間ト見積リ
 一日ノ漁獲高各種ノ魚類ヲ合シテ最低ニ千二百斤
 一月四万四千斤此價格ハ千八百円ノ見込ニテ日々ノ漁
 獲高シマニラ布並ニ布外ノ村落及軍隊ニ供給スル
 ノ計畫ニテアリシガ其後之ニ使用スマキ「トロー」船轉
 籍問題ノ為メ本邦株主間ニ免角ノ議論ヲ生じ
 未ダ第一期事業ノ着手ヲ見ルニ至ラサルモ免角
 此程未ニ隻ノ本邦漁船ヲ取寄セ第二期事業ト

シテ計畫セラレタル海産漁獲ニ從事セントシ「トロー」
 リ故ニ此際本邦側ヨリ使用ノ余地ナキ「トロー」船
 ヲ以テ本島ニお漁セントスルニハ既此「トロー」船
 此種漁業會社ニ於テ一時ニテモ日本ノ船籍ヲ
 比律賓ニ移シサハスレバ容易ク此島領水ニ於テ
 漁獲モ就業スルコトヲ得マロキコトヲ當世業者ノ
 奮起ヲ希望シ一日モ早ヤク本業ノ着手ヲ見タキ
 モノナリ令會社ノ発表シタル目論見書ヲ見ルニ
 見ルニ左ノ如ク
 ▲毎半年期収支豫算
 一全五万二千八百円 半年売上金
 支出
 一全三万五千八百四十四円 半年総支出金

昭和

収款

一、四、千、五、十、四	船員給料
一、千、二、百、七、十、八、四	食料
二、千、六、百、四、十、四	賞勵金
一、四、千、五、十、四	石油其他船舶に要する消耗費
一、九、百、四	魚類保存に要する氷代
一、六、百、四	役員並に使用人給料
一、五、千、四、百、九、十、四	庫務所費(通燈費)其他
一、千、四、百、四	船舶並に漁網新調修繕
一、六、百、四	船舶保險料
一、千、九、百、五、十、四	諸税金(本店及支店)
一、千、七、百、五、十、二、四	豫備費
一、三、千、二、百、四	船舶器具修部資金
計 金 三、五、五、千、百、八、十、四	
差引 金 一、万、七、千、六、百、二、十、四	半期利益金
一、八、百、八、十、四	法定積立金 百分五
一、千、七、百、六、十、二、四	取締役以下賞与金 百分五
一、万、四、千、九、百、七、十、七、四	株主配当金(昭和三年三割)
▲ 計 金 一、万、七、千、六、百、二、十、四	
▲ 資本金勘定	総資本金額
一、金、十、万、四	此株数九千株(但し一株二十四株ノ案合トス)
一、金、七、万、四	内訳
一、金、四、千、四	トモ船一般及附属漁網漁具買収費
一、金、二、千、五、百、四	小漁汽打七艘一艘
	右小漁汽輸入税

出

- 一、金二千五百円 本邦ヨリヨリ港ヨリ運航費
- 一、金三千円 船舶運航保険料
- 一、金五千円 事務所什器造作等其
- 一、金一万三千円 營業資金

金計金一萬四円也

第四節 硝子製造業

山田硝子工場

本島ニ於ケル工業尙ホ未カ希達セカハ尙ニ之チ一本邦人ノ独力一ノ工場ヲ設ケ盛ニ硝子ノ製造ニ從事シ他ニ競争者ヲ有セカハコトテ頗ル良好ナル成績ヲ舉ゲ居ルモノアリ今工場ハ元ト三十九年頃西班牙人エドワードソリヤノ創立ニ係リレモ四十一年十二月ニ到リ現經營主山田留吉之ヲ継承シ目下

在マニエラ日本銀行

工場内ニ熔爐ニ基冷却釜ニ基製錫機械一台ヲ備付ケ外ニ附属鉄工部ヲモ設ケ本邦職工十二名土人職工七十五名ヲ使用シテ重ニ本島産土人酒入ノ角錫類ヲ製造シ居レリ最近ノ調査ニ拠レバ年額六十万本幣ヲ製造シ收入高八万四千連セルベシ此収経費六万四角ヲ差引キ二万四角ノ収益ヲ舉ゲタルヲ見ル尙ホ同下前記角錫ノ外ニ藤葛ニテ履履マキダマフアナト稱スル大錫製造ノ計画ニテ切リノ工事ヲ急ギツアレハ来年年度ヨリハ優ニ現収入額ヲ倍加シ得マキ見込ナリトス

第五節 製紙原料切出經營者

去ル十四年ノ頃ヨリ長床島ノ東南部アルハイ州

加

口からヒレに在角スル長崎縣人村岡伊平流ナルモノ
 カラゴト稀スル樹皮ヲ紙材料トシテ本邦ノ輸出
 我工業試験所ノ試験報告書ニ拠ルハ全樹皮即チ
 表皮ヲ剥去シタルモノ、成分ハ百分中水一三、四、織
 維素四五、五、灰一、八七ヲ含有シ此纖維含有量ヲ以
 テ他ノ製紙原料ト比較スルニ現今本邦ニテ盛
 ニニ使用セラル、三極皮ト相似タリ然レ其皮質
 稍ニ堅硬ナルヲ以テ之ヨリ紙料ヲ製造スルニハ三
 極皮ヨリ尚多クノ行程ヲ要スハク又其纖維ノ形
 状ヲ捨スルニ散皮質ニシテ混在セル細胞質少ナ
 ク長サハ二、五至三五純、幅ハ、二純ニシテ其長サハ
 幅ノ百倍乃至百七十五倍ニ相当ス斯ノ如ク其數ノ
 大ナル、良好ナル紙ヲ製造シ得バキコトヲ豫示セル
 モノト認ムトアリ今人ノ旅ト本邦ニ引続キ
 其筋ヨリ右樹皮剥取ノ免許ヲ度ケ之ガ剥取ニ
 從事シ居レリ全樹ハマヨシ山ヲ中心トシテ散在セル
 諸村落ニ亘ル一帯ノ地域ニ發生シ其面積幅一
 千基米、長約九十五、千基米、我約九町
 十間ニ及リト云フ

前記產業ニ關連シ此律賓管轄區域ニ於
 ケル本邦人又ハ本邦人ノ關係ヲ有スル法人ノ所有
 又ハ租借スル土地ノ面積及所在並ニ其使用目的等
 ヲ表示セバ尤ノ如シ

68

第十年 比津島に於て本年多量に取れたる
 目下比津島群島に在るに本邦移民の總數は約
 四千に達し其内農業にシテハ労働の種別及人員
 大別を左に記す

男女合計就業者

- 一 農業労働者 八五〇
- 一 技術的労働者 (大工、染工、木匠、職工) 二七五
- 一 家内労働者 三五〇
- 一 雑業者 六〇〇
- 一 醜業者 四五〇

前頁各業の細別及就業者人員并に其割合を示す
 左に記す

業種	人員	割合 (%)
農業労働者	850	26.25
技術的労働者	275	8.56
家内労働者	350	11.00
雑業者	600	18.75
醜業者	450	14.06
合計	3225	100.00

養蚕
 糖業
 製糖
 其他
 計

一 小商人 三〇〇
 一 飲食店 二五〇
 一 行商 五〇
 一 總業者 四五〇
 計 一〇〇〇

右、中々支の農業労働者、重の就業地、舉の
 左、如

一 ミンドロ島 カンホーセ、半國資本家 Weldon
 Avemeyer & Franchised Incorporated、
 カンホーセ、エスタート、
 本邦労働者現在人員数 二〇〇人
 耕地、ミンドロ島、東南端 マンガリン港ヲ起點トシ
 海、沿フラ北、延ゲート約三十哩、
 長

方形ラアセル一大平原ニシテ耕作ニ適スル面積約二万
 二千餘町歩、本邦労働者、宿舎及本耕地
 糖工場具、建築物等、マンガリン港ヲ距ル十哩
 地、カンホーセ、在リ又マンガリン港ヨリカンホーセ
 迄、間ニ耕作地有、鐵道アリ
 主要耕作物、種類、甘蔗ヲ主トシ椰子、米等ヲ
 漸次耕作ス、キ方針トシテ、改良地約千三百町
 トス

衛生的設備、衛生設備、スツ完全ニシテ、
 リヤ熱、合風、スラサレ、
 衛生設備、衛生設備、スツ完全ニシテ、
 リヤ熱、合風、スラサレ、
 衛生設備、衛生設備、スツ完全ニシテ、
 リヤ熱、合風、スラサレ、

二、呂宋島、ラダナ、
 農夫賃金 日給賃金、
 砂糖耕地

本邦労働者現在人員数

二〇〇人

位置、石床島、ラダド、バイ湖、東岸、マニラ
距下約四十哩、ピニ村、カラン、市、別、鐵
道線路、西側、沿、一帯、年、新、地、向、積
約二万町歩あり

氣候風土、本耕地、大部分、改墾地、ナラ、マ、ラ、リ
ヤ等、風土病、罹、病、者、多、シ、野、合、ハ、多、シ

主要耕作物、甘蔗

賃金、本邦農夫日給一〇ツ二十五セント

三、ピニダ、島、大田興業株式会社、其、地、邦人、經營、セル、カ

ハ、マ、麻、耕地

本邦労働者現在人員数、四、五〇人

位置、群島、最南端、位、東、太平洋南、端、セ

バ、ス、海、瀕、シ、西、ハ、ス、ル、ル、海、面、ス、一、大、島、ミ、シ、ラ、群、島

第一、富海ト稱ス

面積及人口、同島、面積三〇六千二百九十二平方哩

人口四十九万九千六百三十四人、每一平方哩、十人、割合

ミ、シ、ラ、位、地、ハ、大、半、ハ、本、邦、人、ト、ス

氣候風土、本島ハ、降雨量、一年、約、三、千、三、百、ミ、リ、平、均

セル、ラ、リ、日、為、氣、候、キ、易、ク、群、島、中、第、一、健康、地、ト、称

セル

本邦労働者賃金、日給労働一日一〇ツ二十五仙

麻、米、果、高、新、法、ニ、テ、麻、塊、ニ、從、事、ス、ル、モ、ノ、收入、ハ、同

西、市、場、ハ、高、價、ニ、依、リ、テ、差、異、ナ、リ、一、人、ノ、塊、高、一、月、三

擔、半、乃至、四、擔、ト、現、金、市、場、グ、ラ、ド、カ、レ、ト、三、十、ソ、ツ

ト、ス、ル、ハ、一、月、ノ、收入、五、十、二、ソ、ツ、半、乃至、六、十、ソ、ツ、ト、モ、又、最、低

二十〇ワット貝塚ハ五月又ノ收得三十五〇ワット四十一人
ツラ下ラズ

麻小作ノ大抵普通労働者ニ比シ五割至七割
増収スルヲ期待ス
又此、技術的労働者ノ所在ハワラ獨シ

一、大工 人員 三〇〇人
マニラ

バギオ、シンドロ、カラニ、パヤ、
カラス、レー、パヤ、カラス、マニラ、
但名に、数在ス

賃銀 一日一人二百 半割 三〇〇ワット至四百ワット
大工、賃銀、比較的尙年々、其は、日本内地
ニ比シ、ガキ、熟練ヲ要ス、ハルト、職人、數不足セルヲ以テ

農業等ノ機カニ大工ノ要職スルモノ多ク、素人ト云テ、ル
時産名目ヲ生ズルニ、是ヨリ

二、漁夫 人員 一八〇
新業地 マニラ 一六〇
ニシケナオ島 一六〇

真珠採掘ニ通用スル漁夫ニ就テハ、亦、昔年蘇泊、真珠

採貝會社ノ項ニ、記シタリ、口テ、此ノ、自社、不
普通漁夫ノ月給ハ、大抵、食料費、附、三十〇ワット至五十
ワット、定トス

三、手換 秋業地 呂宋島、パヤ、
ハ、マラオ、ハ、ラ、ワ、島、ア、ホ、ル、ラ、
ニシケナオ島、ラ、マ、オ、
ニシケナオ島、ラ、マ、オ、
ニシケナオ島、ラ、マ、オ、

人員の通計一五〇人

債銀、本境に發送用政本、切出等、送付二〇、
江上高田本乃至五本(毎一本送付)アルコト最低一
日、收入額少ク、亦按は下らん

四、湖工

又三市町具他各地に散在各道、工場、就業
せん、熱練湖上ヲ多、通計一五〇人

室内労働者

一、ホーイ及園丁 二〇〇人

賃銀 月給十五ノツ乃至三十ノツ

二、料理人 一〇〇人

賃銀 月給三十ノツ乃至六十ノツ

三、得母

得母一〇、氣後良ク月給三十ノツ乃至四十ノツ
、同トス、五〇人

別業

小商人 三〇〇人

預貸店以外、小店ヲ開業せんモノヲ云フ
駄菓子店 二五〇人

自ラ労働、送付、蓄積せん小資本ヲ以テ五人
相手、飲食店(氷小屋)及、煎餅屋等、如
キモノヲ開業せんモノヲ云フ

本邦預貸行商 五〇人

労働者ニ多ク、資本金ヲ蓄積セルト謂ク
群島、言語地味、通スルコト、本邦預貸行

南の経年セルモノヲ云フ

今昔の差をトシテ本群島の於ては日本労働者
ノ賃銀、南洋諸島中ニ於テ最高率ニシテ
セルモノト知ル

借入金及負債比較表

借入	大工	普通労働者
比律賓群島	月三三銭	三〇〇一四〇
馬來半島	二八	二二〇一五〇
英領ボルネオ	二三	一五〇一二〇
東京市	二八	二二五

又本島の於ては労働者ノ生活費モ往々比較的多
額ヲ要スル故チアルモ賃銀ノ相違ハ生活費ノ差違
以上ナルヲ以テ償ハシ難クテ神々録アリト云々今本

島ノ於ては労働者ノ生活費用ヲ擧クニ左ノ如ク

マニラニ於ては下品料	十六ポンド至十八ポンド
自炊者ノ生活費	十ポンド至十二ポンド
地方ノ生活費	八ポンド至十ポンド

又昨年中本群島ニ在留スル邦人ノ本邦ノ向
ケ送金セル額ハ四十万八千六百七圓ニ達シ之
ヲ昨年末改定シ本邦人ノ總數三千六百五十四人
ノ分割セルトキハ一人當百十二圓弱ト云々計算ス

第十一章 結論

比島産業の情勢ト本邦人、經營ニ関スル事業
、現況、前途、如シトモ然ラハ本邦人、將來如何
ナル事業ニ着眼シ之ヲ施設ラシムルヲ以テ最モ策
、得タルモノトナスベキ事、熟ク考ヘテ本邦ノ新案ヲ
興ラハ味ヒテ容易ナラズシテ、獨リ各方面ニ涉リ長期
時日ト幾多ノ經驗ヲ有シタル者ニ任シテ研究
ナル明言ヲナス事ヲ得ル以下所論、如キハ單ニ
小官一國ノ私見ヲ立テタルモノト外ナラズシテ且ハ正
鵠ヲ得タル者ニシテ尚モ幾多専門家ノ研議ニ待テ
ルベカラザルヤ勿論ナリトス

在マニラ日本領事館

以テスルモノ、ニトモ事ヲ得ルベシ向テ吾人、前者ニ對シテ
ハ主力ヲ本島農業ニ注ガシキニテ、新言セシトス
ルモノ、是レ大體、於テ比島、南洋ニ於テハ一島國
トシテ文化ニ非ダ、吾人カ不且工業興ラズカ、林業、水産
、鑛業、商業等又微クトシテ所謂、合尚ホ半同、
情態ニ在ルモノトハ、外人モ許ス所ニシテ、斯レハ土地
ニ於テ近ク經濟的開發ヲ為シキモノトモ、又之ヲ主義ト
シラ土地ヲ基礎トシ主トシテ自然界、恩惠ヲ利用
スル途ニ出ヅルノ要アルベク之レ吾人カ先ワ以テ農
業ヲ第一トシテ務ムル所以ナリ、抑ク農事企業業、
要素ハ土地ト低廉ナル勞力ニ在リ、比島本邦以テスル
ニアルモノナラズ、面積十一万方哩ヲ以テ、比島大部分
ハ土地が肥々沃々トシテ、且氣候ト相俟テ、農作に適

アルまレトハニ格別大義ヲ皆働能力ニ比シ又決
レテ不慮ト云フバカス斯クシテ農業企業ニ関スル
要素ハ本邦に農業家、令將ヲ、及セントスル資力
ト相違ク完備スレト謂ハセヨカス

然ラハ一歩ヲ進メテ河運、農業ニ着手スルキヤト云ハレカ
吾人ハ麻ヲ主トシ椰子樹栽培及米作、三ツテ
舉ガレテナリ本島麻前前論論ニシテ世界ニ於テ
ハ獨占的尙品スル真ニ於テ有リタル國ヲ且他、
椰子樹栽培及米作、本島ニ好適スルモノナルカ
中ニ吾人ハ將ニ以テ三島、世界市場ニ於テハ需要
ガ恒久的ニシテ同時ニ事業具多ク危険性ヲ帯
ブル品少ク是ニ於テ真ニ理想的、事業トシテ之ヲ
薦メ躊躇セザルニ也山、石ヲト雖モ比島政府親

在マニラ島本館

察又ハ三條ヲ以テ有リタル企業トスルカ
土に資力下種後資金、貸付事業、紹介等諸
手段勵力シテ少ナレトモ又如何ニ重大視セシ
クアルヲ知、是ラニ
轉シテ資力ヲ有テ努力、ミラシクセントスル本邦人、
事業トシテハ吾人ハ前記ノ農業諸氏ヲ主トシ副光、
ホーイ、園丁料理人等、家内労働者ト大工漢更
木炭、各種職工等、以テ技術的労働者、渡来ラカ
セントスルモノナリ是ニ前記ノ將來益、増加セントスル在倫
邦人又ハ本邦人、數ト共ニ命、具、需要大ニシテ
汝等ハ亦比島内、白人労働者ナリ在来土人ハ
以テ手先は實ニ巧ナラシク事業ガ殆ド日本
人ノ獨特ニ群國ニシテ加ヘテ東洋各地ニ於テ帝

ニ邦人ノ競争力有るニ支那人ノ比島ニ入國ヲ禁
止セラルル一事大ニ試シ、利益ヲ興ハツルモノニ
シテ之ハ將來本島ニ對シテ米國政府政策ノ方針
見産業開發政策ニ伴テ、事業、勸興ニ以テ
ニテ金、以テ労働者、需要ヲ喚起スルニ至ルノ新
シテ吾人ハ以テ健全ナル農業移民ノ渡來ト相應
シテ將來本島ニ對シテ邦人ノ強固的勢力、一要
素ヲ形作ル日ヲ期スルモノナリ

附論

一、外國人、企業ニ對シテ本島

政府ノ方針ト比島人ノ意向

外國人、企業ニ對シテ本島政府ノ方針、一般

至極寛大ナリト謂フ、本島現行法律ハ米米國

ノ法在規則ヲ具限適用スルモ、又之ヲ模倣シテ比
島、北條ニ適合スルキ條列定カスルモ、又、西班
奴有時代、法律ヲ依テトシテ、長足踏ミ付ルモ、具
規定、交易、區々、以テ、輕、難、難、海、人、國、年、ニ、系
レトス之ヲ實際適用スル上ニ於テハ、西班人、英國人、
獨逸人等ノ如キ有力ナル外國人ノ多數ヲ社會、
上流ニ推シ、任カシ、為メ、一、般、外國人ニ對シテモ凡
テ半國人及内地人ト同様ニ地公平、措置ヲ
採リ、本島、同格ヲ企圖セシムル上ニ於テハ、何レ、
國人、タルト資本、本、タルト、同、力、ヲ、之、ヲ、歡迎、シ、注、意、規
則、許、ス、範圍、内、ニ、於、テ、ハ、均、等、ノ、待遇、ヲ、得、ル、例、ハ、一
般、外國人ニ適用スルニキ、移民、法、如、キ、法規、ニ、表面
上、格、別、具、極、簡、ヲ、見、ル、限、ル、交易、一、般、外國人

ノ上陸ヲ許可シ現ニ過去三年間外國人年次
約勞働者トシテ上陸ヲ拒絶セラルモノ、中一名ノ本
邦人ヌラナク、英國商社ノ店員林、之ヲ英國ノ
商社拒絶セラル、カヤキ實收ナリ、隨テ本邦人ノ將來
ハ此ノ如ク全業ヲナサレトスル上ニ於テモ一般ノ歡迎コソ
スレ云々、反對スル所、トモ、真欲有ク、海ノ北トモ思ヒ
ナルナリ

本島人ハ具河ノ種類ニ屬スラ、例カ一般ノ本邦
人ニ對シテ好意好國情ヲ有シ、隨テ我在留邦人トシテ交
際ハ頗ル親密ヲ極ム、別ニ此處ノ遊ヒセラルモノ、且合
ク、留邦人種ノ外見上殆コト大差ナク、又其氣風
互ニ融以スル所、アルヲ以テ、故テ之モ、東ニ南ニ北
間ニ移邦人ノ、但外國人ニ比シ、最モ有利ニ地位

在ニシテ、日本會社

ニ五テモト謂フ、各該邦邦人ノ、以テ、此島ニ、移居スル
難門帯ニ來ル、出入ト極同程度ニシテ、事業ヲ興ス
コト、大ニ利クシキハ、亦ナリ

二、日本人ノ比島入國ニ関スル本島政府
ノ態度

本邦人ノ比島入國ニ関スル本島政府ノ態度ハ、先
ツ、該島外國人ノ、比島ニ、區別的待遇ヲナシ、先
耳ニ、比島ニ、移來スルモノ、其來ル、如ク、本邦州ノ、移來相
當、渡航ノ、自費ヲ、別限シ、毎邦特、目立、免稅、程度
ニ、建、該島内ニ、於テ、渡航、差許、スル、キ、ト、モ、セ、ハ
何等、比、島、異議ヲ、奏、ス、ラ、ズ、キ、ト、モ、思、フ、カ
三、日本人ノ、事業、經營、上、妨礙ト、ス、ル、キ、法、令、ノ
有、無

前記の如く事實上本邦人の對し差別的待遇ヲナセル
ハ島政府ハ又法廷上外國人の對し他外國人トシテ
等々差別ヲナスナリ故ニ殊更急クテ或ル種法規
政訂又ハ廢止ヲ強ムルモノニアストル若シ出來得
ニハ將來本邦資本家投資ヲ交易ナラシムルガ爲メ
ハ島ニ於テ全ク短少ノ外國法人ハ農業經營ヲナセ
上ニ見合ハシメ本國法人若シハ島法人ト同ク公有
地所有權者又ハ神下ノ許シ外國自然人ノ對シテ
モ亦本邦人ト同ク公有地所有權者神下及ホムルニテ
ツドシ設置認可ヲ得ルモノトス蓋シ現今ハ島出
産ノ大部ヲ礦産トスモノハ公有地ニシテ尙尙有ル六千
万トカーレト稱シテハ島將來開發スルキ農業用途
ハ自然之レ等ヲ使用スルニテ最モ有益トスルニ種々法律

ハ島ニ於テ農業經營者ノ利便ヲ與フヤ大ニト望
ムルガ爲メ向テ改行移民法ハ差別的移民上陸禁止ノ
條項ハ之レ又本邦人ノ對シ一障壁ナラトスルニテ
ハ移民保護法ハ其ノ主義ニ於テ確固ナル獎勵先
ヲ有セザル限リハ交易ヲ移民ノ渡航ヲ許可セザル
米國移民法ハ全然其ノ反對トスル契約移民禁止
ヲ實行シテハハ島上陸ハ陸上陸ニ降ル移民官
更ニ對シテ自由移民トシテ承認ヲ企テタムルニ表
明ヲナシテハ乃チ上陸法移民ノ行初ハ全ク誤解
自由ニシテ移民代理人ニ移メ公然之ヲ拘束シテ所
宜ノ場所ニ送ルヲ難シトスル情勢ヲ爲ス處庸者
ハ不便點ナカラズト云フ所クハ労働ヲ目的トシテ外國
ル者ヲシテ自由契約區別ヲ交易上陸就業ヲ

乃し得ん謀ハハ比島ニ於テル本邦移民ノ發展
 上必要ノコトヲ謂ハルカテ前記ノ障害ノ
 除去方法ハ第一、土地ノ開闢ニ障害ニ對シテハ華
 盛政府ヲ通ヒテ本島政府ヲ勸カシ現行土地法規
 ノ改正ヲ比島議會ニホメシムルノ外ナシト雖モ第二
 ノ移民法ノ改正ニ到リハ比島政府、尙尙官憲ヲ
 レテ取扱上、手ハ用ヒカスコトニ日米間ニ一協
 定ヲ為スヲ得バ必ラカシモ法律ノ改正ヲ待タズテ具
 ノ目的ヲ達スルコトヲ得ンカ

四、土地ノ開闢ニ外國人ノ權利

現行法ニ據ルニ外國人ノ公有地ニ於テハホームステッド
 ヲ設定シ之ヲ賃借シ又ハ買受クル權利ヲ有ス
 然レモ本島、合衆國及其附屬島嶼、人民ノ公有
 地ヲ、ホームステッドトナスコトヲ得ン、又本島、合衆國
 又ハ其附屬島嶼、人民若シハ本島、合衆國又ハ
 其、州、テリトリーニ或ハ島嶼、法律ニ遵據シテ
 設立セラレシ法人又ハ社團ニ凡テ公有地ヲ賃借
 シ買受クル權利ヲ有ス(一千九百三年比律第
 ニミッソシ法律第九二六條公有地法律一條第十條第
 二十二條参照)

且レ本島法律ハ外國人ノ私有地ヲ得ニ開闢シテ
 等ノ制限ヲ設ケザルカ故ニ外國人モ私有地ヲ所有シ
 又ハ買受スルコトヲ得ルモノトス
 要スルニ外國人ノ公有地ヲホームステッドトシ又ハ之
 ヲ賃借シ買受クルコトヲ得サルニ一私人ノ不動産ヲ取
 得スルヲ妨ケザルモノトス

大ニ公有地トシテ一旦本島合衆國又ハ其附屬
 島嶼ノ人民ニ於テ買取タルトキハ其地ノ公有地ト
 爲スルヲ以テ外國人ニ於テ之ヲ買取ルコトヲ得ルニ
 又外國人ト雖モ前記ノ如ク本島法律(千九百
 六年法律第一四九號)ニ依リテ法律第一四九號行會社(合
 ニ是キ農業者經營ノ目的ヲ以テ)法人(Corporation)
 ヲ組織スルトキハ法人ノ名義ヲ以テ公有地千二十四
 ヲ買取ル(約二千五百三十エーカー)ニ得ル(以テ)出地ヲ
 買取ル又ハ之ヲ買取タルコトヲ得ル且價額料ニ毎
 一ノク先者一ノ年以價額以上ノ定額ニテ買取ル期
 限ニ二十五ノ年トシテ尙ホ引續キ更ニ二十五ノ年同價
 額者ノ存続ノ後之ヲ延長スルコトヲ得ルカモ第二
 期間ニ於ケル價額料ニ每一ノク先者一ノク五ノ仙
 以上ノ額收セラルル又之ヲ買取タルトキハ場合ニ依リ
 出地ノ價額ニ於テ地味ノ肥瘠交通ノ便否等ニ因リ自然
 高下ナキニテ一律トシテ普通價額每一ノク先者一ノ價額
 十ノク以上ノ割合ヲ以テ買取ルコトヲ得ル法律ニ依
 リテ之ヲ買取ルコトヲ得ル者ハ定額ノ下ニ入ル價額ニ
 割合合不入ル降納付セバ殊額ノ降納後其
 年間ノ限一年間申込一年別ニ右各等ノ許カセラル
 又千九百二年七月一日帝國議會制定法律第
 二四九號法律第二十一條ニ依リテ合衆國及本島ノ
 人民ハ本島ニ於ケル既ニ測量セラルル又ハセラルル
 公有地ノ存在ニ一切ノ礦物ヲ採掘スルコトヲ得ル
 且買取タル自由ヲ有スル外國人ハ現行礦業
 法ノ下ニ於テハ該公有地ニ於テ採掘業上ノ權利ヲ

在マニテ日本領事館

有也。但此右規定、私有地、鑛業權、商用
セラレサルモノトス。隨テ私有地ニ在リテハ、外國人ノ内
國人ト同様に自由ニ採掘スルコトヲ得ルモノトス。

其 外國人、比律賓市民權獲得、
有魚

米國議會、千八百九十八年十二月十日巴厘ニ於テ
米西兩國間ニ締結スル條約第九條并ニ千九百年
三月二十九日華盛頓ニ於テ調印スル追加條約ニ基キ
千九百二年七月一日制定スル比律賓ニ關スル法律第
四條ヲ以テ左記ノ規定スルモノヲ以テ比律賓市
民權ヲ享有スルモノト定メタリ。(別紙續定法律ニ照
千八百九十九年四月十日(即チ巴厘條約批准
交換ノ日)ニ於テ訂續スル比律賓群島内ニ居住

日本領事館

レ且且條西班牙國ノ臣民籍ヲ有シ居ル者
及ビ其子孫、但シ同條約ノ規定ニ依リ同日
勇向ツ下年半年以内ニ訂續スル西班牙臣民
ラレトシテ留保聲明シタルモノ之ヲ除ク
右ノ外、其後今日迄歸化シ、關スル法規、制定
アラサルヲ以テ外國人又ハ比律賓群島ニ於テ
出生スル其子ハ孰モ比律賓市民權ヲ獲
得スルコトヲ得サルモノトス。

Act of Congress July 1, 1903.
"The Philippine Bill."

Sec. 4. That all inhabitants of the Philippine Islands continuing to reside therein who were Spanish subjects on the eleventh day of April, eighteen hundred and ninety-nine, and then resided in said Islands, and their children born subsequent thereto, shall be deemed and held to be citizens of the Philippine Islands and as such entitled to the protection of the United States, except such as shall have elected to preserve their allegiance to the Crown of Spain in accordance with the provisions of the treaty of peace between the United States and Spain signed at Paris December tenth, eighteen hundred and ninety-eight.

84
a

3-0201



Act of Congress July 1, 1902.

" The Philippine Bill".

Sec. 4. That all inhabitants of the Philippine Islands continuing to reside therein who were Spanish subjects on the eleventh day of April, eighteen hundred and ninety-nine, and then resided in said Islands, and their children born subsequent thereto, shall be deemed and held to be citizens of the Philippine Islands and as such entitled to the protection of the United States, except such as shall have elected to preserve their allegiance to the Crown of Spain in accordance with the provisions of the treaty of peace between the United States and Spain signed at Paris December tenth, eighteen hundred and ninety-eight.

3-0201

0504

附録 米作并甘蔗耕作計算書

九ノパンパンカ内ホーララク地方ニ於テ本邦小作勞働者
 か實地經驗ヨリ得タル米作並ニ甘蔗耕作ニ対スル
 収支計算表ヲ記載スベシ

パンパンガ州ホーララク地方米作地ニ於テ四十
 バリタス(約我十二町步)米作収支計算表

(三バリタス半ヲ以テ一町步トナス)

▲第一期作 毎年(七月植付 十二月收穫)

支出ノ部

植付ニ対スル費用

六十三圓

七十二圓

三十六圓

種籾二十一俵

荒起シ 牛九十六頭
 毎二畝ニ對シテ若者一人

茅田地均シ(年四十八畝全上)

一俵三四

一組一円五十銭

全上

三十六圓

七十五圓九十銭

小計 二百八十二圓九十銭

第二田地均シ(年四十八畝全上)

田植男女二百三十人

全上

各日給三十三銭

收穫期費用

百十九圓二十銭

十五圓

十四圓

百四十五圓

四十四

六百三十四

稲苗入男女二百九十八人

稲運搬用牛車十五台

稲村送り用人工二十一人

稲扱馬百七頭(各一頭毎
 日者一人)

稲掃除用男女八十人

地主ニ対スル作料

籾二百五十二俵(三バリタス
 一俵ノ割)

各日給四十銭

一円一圓

日給五十銭

一組五圓

各日給五十銭

一俵二円五十銭ト仮定

小計 九百六十二圓二十銭

合計 千二百四十六圓四十銭



収入二千百四	収獲叔八百四十俵 (一俵ノ種ヲ以テ叔四十俵収獲)	一俵二内五十俵夜定
差引純益残金八百五十三内九十粍		
第二期作 植付支出 六十三内	第一期作ト全断	第一期作ト全断
七十二内		
三十六内		
三十六内		
七十七内九十粍		
百十九内二十粍		
十五内		
十四内		
百四十五内		
四十内		
三百十五内	地主ニ対スル中作料 叔百三十六俵(二バリタニ叔三俵ノ割)	
合計九百三十一内四十粍		
収入千四百十七内五十粍	又獲叔五百二十七俵 (一俵ノ種ハ叔ニテ五俵ヨリ三十俵迄ノ 収獲アレルニテ七俵手均トナセリ)	
差引純益金四百八十六内四十粍		

在
ラ
日
本
領
事
館

3-0201



バンガシナン州タイユグ地方甘蔗栽培
一町歩に對する収支計算表

香川

支出ノ部	植付費用	十二町	第一面荒起シ(人丈八人 水牛十頭)	人丈一名(組一町五十畝) 水牛二頭	二〇〇〇
		三町	第二面荒起シ(人丈六名水牛三頭)	全	三〇〇〇
		三町	第三面荒起シ(人丈六名水牛三頭)	全	三〇〇〇
		九町	第四面荒起シ(人丈二名水牛四頭)	全	九〇〇
		三町	第五面荒起シ(人丈二名水牛四頭)	全	三〇〇〇
		六町	第六面荒起シ(人丈四名水牛八頭)	全	六〇〇〇
		六町	第七面荒起シ(人丈四名水牛八頭)	全	六〇〇〇
		一町五十畝	水撒用入丈三名(但水車便ナキ處)	一名三付五十畝	一〇〇
		三町	第二面ハカリ用荒起シ(人丈二名 水牛四頭)	一組一町五十畝	三〇〇〇
		七十畝	女肥料撒十二人	一人三十畝	七〇
		四町	植付用人丈八人	一人五十畝	四〇〇〇
		一町五十畝	種運搬人丈三人	全	一〇〇
		八十畝	水供用水牛は者四名(但ハカリ機械 使用の際)	一人二十畝	八〇
		二町五十畝	種切り用人丈五人	一人五十畝	二〇〇
		三町	種運搬荷車二台	一台一町五十畝	三〇〇
		五十畝	種水付用人丈一人	五十畝	五〇
		計十八町五十畝	植付費用計		六八五〇
		一町五十畝	第一面水撒用人丈三名	一人五十畝	一五〇
		六町	第一面草取機械用(人丈四名 水牛八頭)	一組一町五十畝	六〇〇
		三町五十畝	第一面草取十人	一人三十五畝	三〇〇

三四	第一回土撤 人丈三名 水牛四名	一組一四五十名	三〇〇
一四五十名	第二回水撤三名	一名五十名	一五〇
三四	第二回草取機四 人丈四名 水牛八頭	一組一四五十名	六〇〇
三四五十名	第三回草取十人	一人五十名	三〇〇
一四七十五名	肥料撒十人	全上	一七五
一四五十名	第二回土撤 (人丈三人 水牛六頭)	一組一四五十名	四〇〇
一四五十名	第三回水撤三名	一人五十名	一五〇
七四五十名	第三回土撤 (二回) 人丈五人 水牛十頭	一組一四五十名	七五〇
一四五十名	第四回大土撤 (人丈三人 水牛六頭)	全上	四〇〇
一四五十名	第四回水撤三人	一人五十名	一五〇
五十名	肥料撒十人	全上	〇五〇
五十五名	肥料十俵	一俵五十四名	五五〇
十二名	一町歩三斗三升 一斗八升 監視人四名 月給料	一月月給料十五斗 (十町歩三斗三升)	二二〇〇
百四	薪入人丈及烟 機場迄 運搬費	一町歩三斗三升	一〇〇〇
百十四	砂糖瓶台付 百五十組	一組運搬費 共百五十名	六〇〇〇
十四	製糖原料代	製糖高 一割、割合	一〇〇〇
七十五四	種代及運搬費	三荷車	一〇〇〇
十四	一等地借地料		二二〇〇
二十二四	小計 手百九十四 七十五名 手入費小計		三九〇七五
合計四百五十九 四二十五名 (支出総額)			七五〇〇〇
収入 計七百五十四	一町歩、製糖高 百五十名	一箱五斗下 仮定 (相場、一定せず)	七五〇〇〇
差引純益			二九〇七五
手百九十四 七十五名			

但シ水牛ヲ自巳所有ノ者トスレバ前記支出ノ部
ニ於ケル計算中ヨリ水牛代五十九両ヲ引キ去リ
計算ノ残スベシ
植付期ハ大抵毎年十月下旬ヨリ翌年四月迄
トシ収穫期ハ翌年十月下旬ヨリ翌々年四月
迄トス

在マニエラ日本館事館



受20664號

訂正

館事領本日ラニマ在

印田

夏

大正九年九月廿五日接受

商第二課

大正二年九月十五日
在マニラ領事館
外務省文書課中



本館に在る在便機密第二二部ノ以テ及提出願
比津島群島産業調査報告書第八号土業ノ
部ニ合メル一表中投資額、仕紳給料、割込金
ノ三欄トモ各計數ノ單位ヲ「ソ」ト記載スルヲ記
載セシテ提出後店ルヤニ對テ計帳間一應印紙類
上差シ果シテ記載誤ト相成候限ハ午印紙類
「ソ」ト加筆方可然所計相續度口改申出候

3-0201



印田

受20880

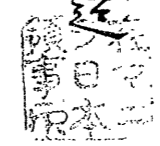
大正三年九月廿九日 商第二課

公第ニ〇八号

大正三年九月二十日

在マニラ

外務大臣男爵野村敬毅殿
領事代理副領事杉村恒造



比律賓産業調査報告中訂正方申報ノ件
本月一日附秘第二号ヨリテ及提出置キ比律賓島
島産業調査報告書中第四章島産業第一節对外商
業ノ中

訂正

台湾	一三八四。	三、五二、六〇七。	一、二五、四二四、九五
朝鮮	八四一、二	一、五二、六四、六六	八八、一、一〇、六四
トアル			

台湾	一三八四。	三、二五、二、五八九	一、二五、三、二四、二、三三
朝鮮	八四一、二	一、三〇、七、一、七七	八八、一、一〇、六四

ト訂正致度ニ付右然信取訂相成候様致度此段
申進候 敬具

BUREAU OF SCIENCE

Album No

Place

Subject

Japanese Consul

2204 Azarraga

Remarks

Manila

商通 11 郵

大正四年九月十日

横濱 二二〇五番

日本郵政

Catalogue No

3-0201

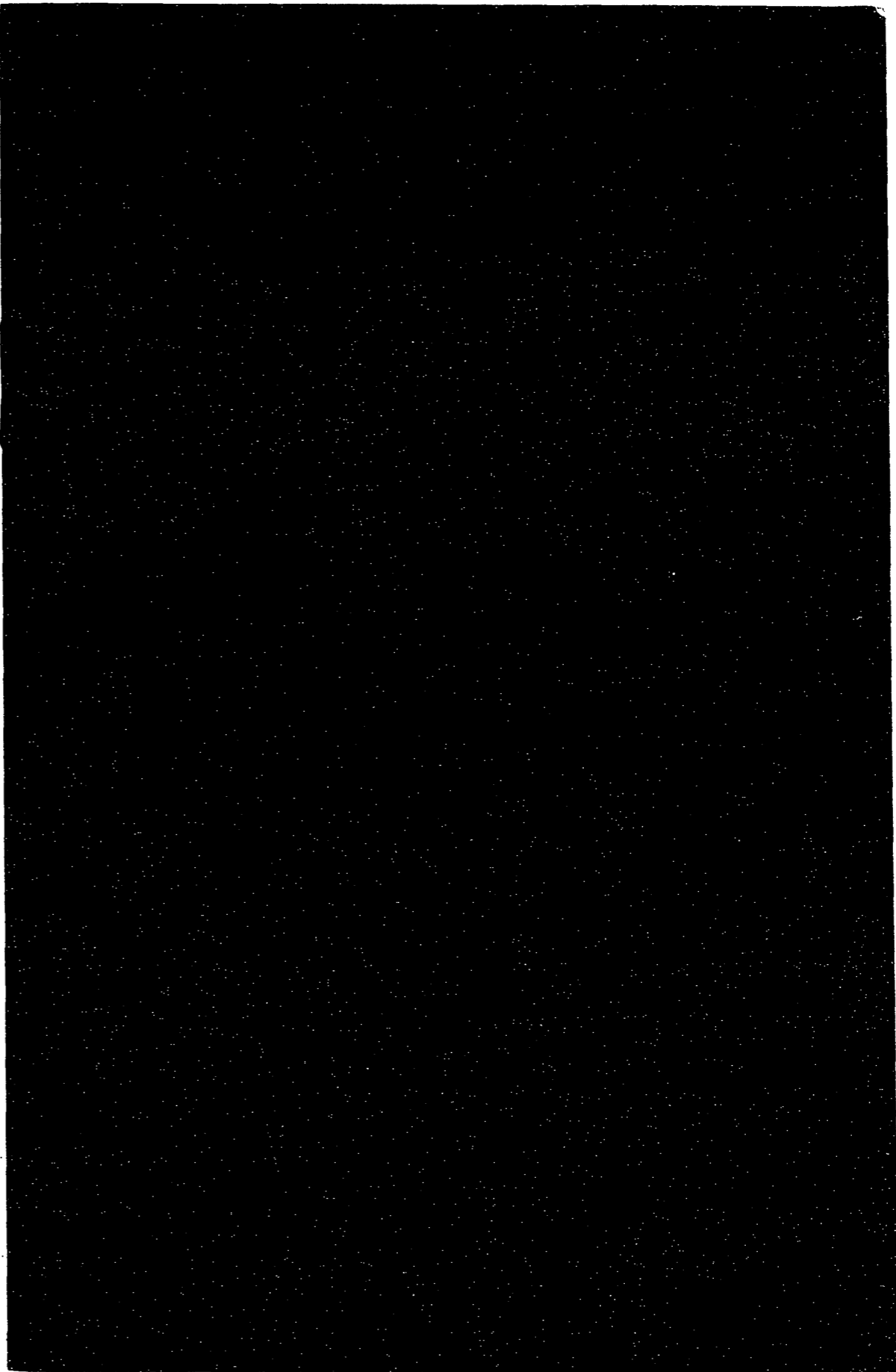




宇真軍
八葉

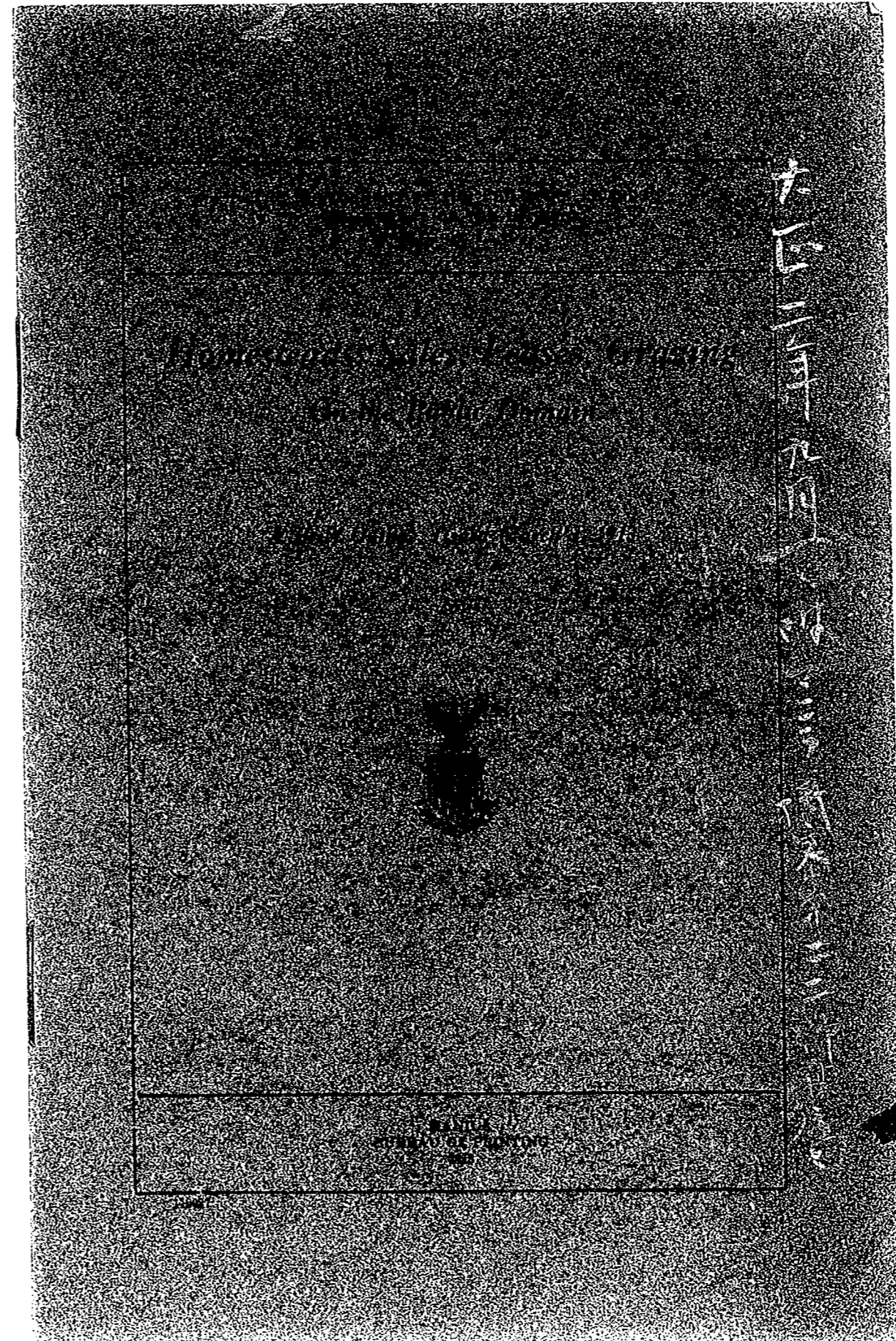
3-0201





3-0201

0514



3-0201



THE GOVERNMENT OF THE PHILIPPINE ISLANDS
DEPARTMENT OF THE INTERIOR
BUREAU OF LANDS

Homesteads, Sales, Leases, Grazing
On the Public Domain

A Brief Outline, Issued March 1, 1913



MANILA
BUREAU OF PRINTING
1913

118027

3-0201

05 15

A BRIEF OUTLINE OF THE PROVISIONS OF
THE PUBLIC LAND ACT RELATING TO
HOMESTEADS, SALES AND LEASES, AND
OF THE ACT PERTAINING TO PASTUR-
AGE ON THE PUBLIC DOMAIN.

WHAT LAND MAY BE TAKEN UP.

Unoccupied, unreserved, unappropriated, nonmineral,
agricultural public land more valuable for agricultural than
forestry purposes.

HOMESTEADS.

QUALIFICATIONS OF APPLICANTS.

Must be a citizen of the United States or of some Insular
possession thereof, or a citizen of the Philippine Islands,
21 years of age, or the head of a family, and not the owner
of more than 16 hectares (40 acres) of land in the Philip-
pine Islands, nor the owner of 16 hectares under a gratui-
tous grant from the Government of the Philippine Islands.

AREA.

Not to exceed 16 hectares (40 acres).

CONDITIONS.

Cultivation for five continuous years after filing applica-
tion and actual residence for the last two years of the five
required for cultivation.

FEES.

Twenty pesos (\$10)—P10 (\$5) upon filing the applica-
tion and P10 at time of filing final proof; or P4 (\$2) may
be paid annually during the five years of cultivation. In
addition to the above fees, the applicant must pay notary
fees, amounting to about P3 (\$1.50) and P6 (\$3) to the
registrar of deeds for Torrens title.

SURVEY.

The land is surveyed at the expense of the Government.



SALES.

WHO MAY PURCHASE.	AREA.
1. Any citizen of the United States or of the Philippine Islands, or any Insular possession of the United States.	Not exceeding 16 hectares (40 acres).
2. An unincorporated company, whose members have the foregoing qualifications.	Not exceeding 16 hectares (40 acres) for each member.
3. A corporation organized under the laws of the Philippine Islands, or of the United States, or any State, Territory, or Insular possession of the United States, provided that any corporation organized outside the Philippine Islands must obtain permission from the Secretary of Commerce and Police to do business in the Philippine Islands.	Not exceeding 1,024 hectares (2,530 acres).

Every corporation applying for public lands must file with its application a certified copy of its charter or articles of incorporation. A corporation authorized to engage in agriculture is limited to the ownership or control of not exceeding 1,024 hectares (2,530 acres) of land in the Philippine Islands, and no corporation engaged in agriculture or mining, or any of its members, may be interested in any other corporation engaged in agriculture or mining in the Philippine Islands. It is also unlawful for a corporation organized for any purpose, except irrigation, and doing business in the Philippine Islands, to be interested in any other corporation engaged in agriculture or mining in the said Islands; nor may such corporation purchase public lands if any member of it has purchased public land under the provisions of the Public Land Act.

FORM OF TRACT.

Where a company or corporation makes application for more than 64 hectares (160 acres), the land must be taken where possible in contiguous squares of 64 hectares.

PRICE.

Public land is sold at not less than ₱10 per hectare (\$2 per acre). Ordinarily, wild public land is appraised at the minimum. Lands exceptionally clear, soil above the average, and advantageously situated with reference to transportation may be appraised at a higher figure than the minimum. Bids must be in writing and sealed. The land is sold to the highest bidder.

PAYMENTS.

Twenty-five per cent must be inclosed with the bid. The balance may be paid at the time the award is made or in equal annual instalments extending over a period of five years, or at the end of five years. All deferred payments bear interest at 6 per cent per annum.

SURVEY.

If the applicant is an individual, survey is made at the cost of the Government; if a company or corporation, at the expense of the applicant. The charges will be the actual cost plus 10 per cent.

TITLE.

Five years after the date of the award, if applicant can prove satisfactorily that he has occupied, cultivated, and improved the land during that period, patent will be issued upon completion of the survey and the payment of the balance, if any, of the purchase price.

LEASES.

WHO MAY LEASE.

Any citizen of the United States, or of the Philippine Islands, or any Insular possession of the United States or any unincorporated company whose members have the foregoing qualifications; or any corporation organized under the laws of the Philippine Islands, or of the United States, or any State, Territory, or Insular possession of the United States, provided that any corporation organized outside of the

Philippine Islands must obtain permission from the Secretary of Commerce and Police to do business in the Philippine Islands, may lease not to exceed 1,024 hectares (2,530 acres) of public land.

FORM OF TRACT.

Any area exceeding 64 hectares must be taken in one tract and must be taken, where possible, in contiguous squares of 64 hectares (160 acres).

TERM OF LEASE.

Leases may run for a period of twenty-five years, with the privilege of renewal for a second period of twenty-five years.

RENTAL.

The annual rental for the first twenty-five years may not be less than 50 centavos per hectare (10 cents gold per acre). For the second period of twenty-five years, the rental will not exceed ₱1.50 per hectare (30 cents gold per acre) per annum.

Rent must be paid annually in advance. It has been the practice to lease wild, uncleared land at the minimum for the first twenty-five years.

SURVEY.

The land must be surveyed before a lease will be executed. The cost of survey will, in all cases, be paid by the applicant.

TIMBER AND MINERAL.

A lessee of public lands acquires no rights to remove mineral or dispose of valuable timber.

GRAZING.

Authority may be obtained to pasture on public lands in the Provinces of Mountain, Moro, Nueva Vizcaya, and Agusan. Permits may be obtained from the provincial treasurer of the Province.

CHARGES.

No charge is made to pasture 100 animals or less. In excess of 100 the fee is 50 centavos (25 cents gold) per head per year for horses, cattle, or carabaos, and 20 centavos (10 cents gold) per head per year for sheep or goats.

RENEWAL OF LEASES.

Request for renewal must be made on or before the 1st day of January in each year.

SURVEY.

No survey is required, but the applicant must describe in a general way the territory to be pastured.

C. H. SLEEPER,
Director of Lands.

Approved:

DEAN C. WORCESTER,
Secretary of the Interior.

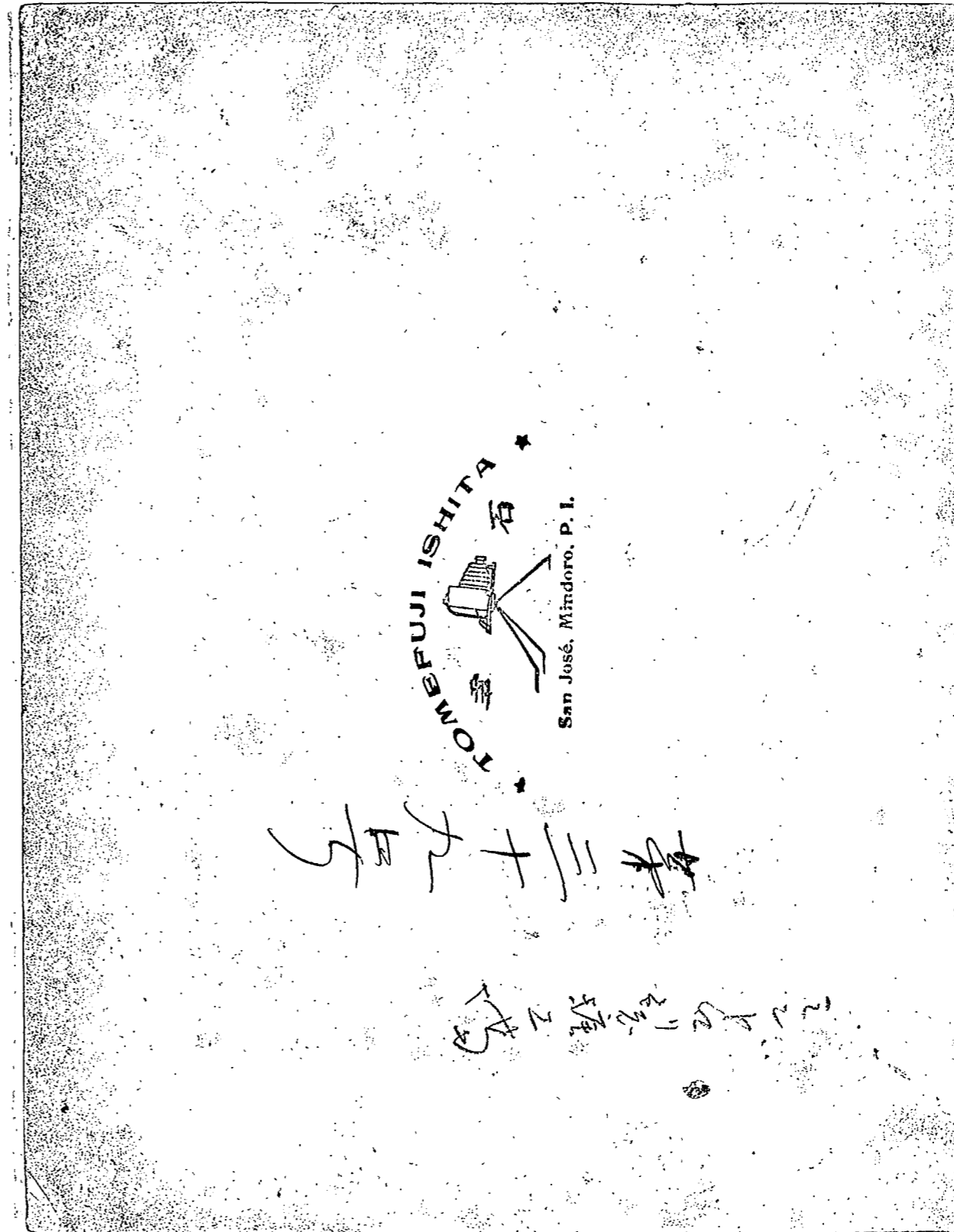
○





3-0201

0520



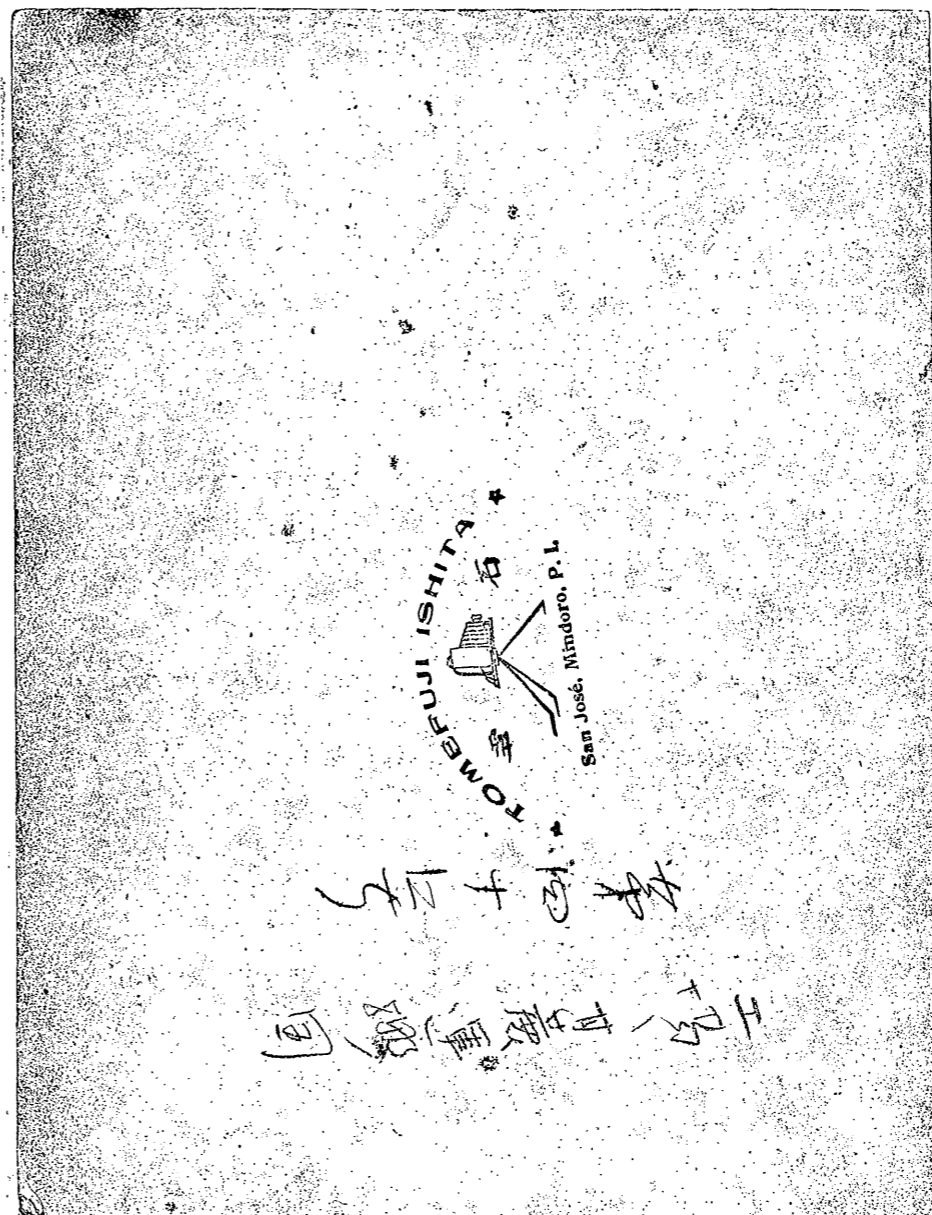
3-0201





3-0201

0522



3-0201



附屬書類添附

大正貳年十月拾八日接受

商第二課

24368號

第...門...第26號

館事領總國帝育紐

公月二四七号

大正二年十月廿三日

在任 飯島龜太郎

總務課

通商公報
第七〇號

比島在留外國商賈ノ算數
及其投資額ニ就テ報告ノ件

比島在留外國商賈ノ算數及其投資額
ト題シ別紙報告書ニ提出致シ間可然可所
計相成度此致申一准テ敬具

大正二年十月十六日記録第一册接受

3-0201



比島在留外國商賈員數

並其投資額

(昭和三年十月三十一日現在)

比律賓政府の收税と同島在留外國人即
及小賣商人員數賣上高及製造家ノ
投資額等調査ノ結果ハ同島華業上
ニ於ケル各國人ノ勢力並ニ活動ノ狀況ヲ
窺知スルニ便ナラシメ今尤ニ之ヲ表掲スベシ

国籍

比律賓人 小賣商人 製造家 投資額

比律賓人	三二五二	三七七〇	一〇、三九五	六、七七八
支那人	三三三三	八四四九	三、〇四九	九、〇八七
西班牙人	三三〇	五五七	三、六四三	七、四四九
米國人	二〇七	三七一	三、五四四	七、三九〇
英人	五五	三七	二、八九五	八、三三
独逸人	五五	一三	二、〇九七	二、一五七
日本人	四二	二八〇	一、三二七	九、二九〇
東印度人	四一	九〇	一、三三四	三、二二
其他諸國人	七五	二〇二	六、二八九	三、二二
今計	七、三〇四	一、七三三	三、八四六	二、三六八

在紐育日本總領事館

上表ニ依リテ見ルニ同島ニ於テ商業ニ従事スル支那人ハ總數一萬五千人弱ニシテ比律賓人ノ七万有餘人ニ比シ約六分ノ一ニ過キスト其高賣上高ハ後者ニ四倍ノ盛況ヲ示レ同島ニ於ケル産業上支那人ノ根柢頗ル鞏固ナラシムルハ又同時ニ

注意スベシ同島が千八百九十九年當國ノ領
 有ニ歸シテ以來已ニ十有五年ノ星霜ヲ經
 過シ身固者國政勳力銳意同島ノ開
 發振興ニ努メタルニ物ハラス同島産業上米
 國人ノ地位今尚西班牙人ノ下位ニ在リ更ニ
 著シキ發展ヲ為リんと是ナリ且ニ益シ同島
 ニ對スル以海國施治ノ方針確立セズ類業及
 資本ノ流入ヲ困難トシタル者ナルヲ以テ
 更ニ注意スベシ同島ニ在リ人英商資本
 ノ比較的廉小スレバ邦人ノ産業上ノ
 地位ノ極ニ幼稚スル一事是ナリ

在紐育日本總領事館

80

